田園環境都市ビジョン 基礎資料

豊田地区

2022 年 10 月

小山市

田園環境都市ビジョン 基礎資料｜豊田地区

目次

Ⅰ 調査の趣旨と調査概要 …… 1

1 目的
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け
3 地域での各種調査
4 調査報告 …… 2
5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成

Ⅱ 踏査および文献調査による報告 …… 3

1 豊田地区の概況
2 地域の自然について
3 地域の自然への人の働きかけについて …… 7
4 地域と人々の心身の結びつき …… 13
5 景観から読みとれるその他のこと …… 16

Ⅲ 簡易社会調査による報告 …… 20

1 目的と実施概要
1-1 目的について
1-2 実施概要について

2 結果整理の手法について …… 21
3 各調査の結果報告 …… 22
3-1 グループインタビューの記録
3-2 アンケート調査結果（概要版） …… 47
4 調査結果の再整理と考察 …… 55
4-1 キーワード抽出と人口増減データ
4-2 調査結果の再整理 …… 60

参考・引用文献 …… 63

Ⅰ 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市　小山」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、現地調査（踏査)、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市　小山」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市 小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照)。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることに当たる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

踏査（現地調査)、簡易社会調査 2 種（聞き取り調査、アンケート調査)、文献調査を組み合わせて行った。以下は、その概要である。

3-1 踏査

小山市豊田地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせて、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのかを調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているのかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

3-2 簡易社会調査１ － 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

3-3 簡易社会調査２ － アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市　小山」の具現化に向けた取組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関した資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- 日程　令和 4 年 9 月 22 日(木) 18:30-20:00
- 会場　豊田公民館

5 田園環境都市ビジョン基礎資料の作成

上記 4 で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市 小山」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市　小山」を浸透させて各種取組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 豊田地区の概況

小山市の基本地形と豊田地区の位置

西から思川低地、宝木（たからぎ）台地、鬼怒川低地が並び、宝木台地（図中、着色）の東を鬼怒川、西を思川が流れています。豊田地区は、小山市の北部（北西）に位置します。

小宅、大本、小薬、松沼、卒島（そしま）、荒川、黒本、島田、上初田、今里、立木、渋井の 12 村が明治 22 年（1881）に合併し成立した豊田村をもととする豊田地区の面積は 20.93km^2 で、市の面積の約 12.2%を占めます。地区の人口 7,201 人は、市の人口の約 4.3%に当たります（令和 3 年 4 月 1 日現在。「令和 3 年度版小山市統計年報」より）。

地区は、思川（おもいがわ）や巴波川（うずまがわ）が流れる思川低地と呼ばれる地形の上にありますが、これらの川の源流域が位置する足尾山地に近く、思川の河床の傾きは特に両毛線鉄橋から上流側で大きく、地盤の高さは海抜約 28～44m となります。河床の傾きが大きいと水の流れは速くなり、川は砂や粘土より大きな石を運べ、地区では直径 3cm 内外の円い石が川の他に水田などにも見られ、川が流れを変えながら地形をかたちづくった跡がうかがえます。

湧水帯に多くを占められた豊田地区

『小山市史 通史編 I』に「卒島から島田付近は、湧水帯を形成し」と書かれています。加えて、より上流側の小薬にも湧水池があります。このように、豊田地区の方々に水源地が分布しています。

思川の流域の半分は山地が占め、雨が降れば広範囲から水が集まり、土砂を運び下ろし、巴波川などと共に流れる先を方々へ変えて土砂を振りまき、思川低地をかたちづくりました。土砂の積もり方には高低差があり、先人は自然堤防と呼ばれる微高地に集落を築きました。集落は、冬の乾いた北西の風に備えて植えられた木々や防火、防犯を兼ねた生垣などの緑が豊かで、水田や麦畑のある低湿地、田園に浮かぶ島々のように見えます。

思川は、山地から急に低地に流れ出す川で、豊田地区のあたりまでは河床の傾きも比較的大きく、山地を流れる上流域、両毛線鉄橋または乙女大橋のあたりまでを流れる中流域、生井地区と間々田地区の間を流れて渡良瀬川との合流点に達する下流域に分けて考えられます。地区では、思川中流域の低地の細かな地盤の高低や湧水帯などのある環境が、土地利用に繊細に生かされています。

自然と歴史への人々の暮らしの重なり

湧水池や川から水を引く水路の部分は、地区内の各地で環境保全活動の対象とされ、多世代にわたる生活者が親密に交流しながら、身近な水域にすむ生き物の生育環境を守っています。

豊田地区も交通の要所とされてきました。近世には、思川、巴波川の河川交通の他に栃木道が立木、松沼、卒島を、壬生通りが黒本を通り、明治 21 年（1888）開業の両毛鉄道小山駅−足利駅間で、同 44 年（1911）に思川駅が新設されました。以降、自動車の利用に対応して広域を結ぶ道路は集落から離され、集落の中の道路は生活空間としての性格を色濃く持つようになりました。人々は庭や納屋の一部を道路に面して開き、社寺の境内やそこに設けられた公民館、集会所とその前庭は道路に連なる広場のように使われ、折々に人々の交流活動が広場や道路、および道路に沿った農業水路の傍らで行われ、田園に浮かぶ緑の島々のような集落に、人間的な公共空間が備わるに至っています。

2 地域の自然について

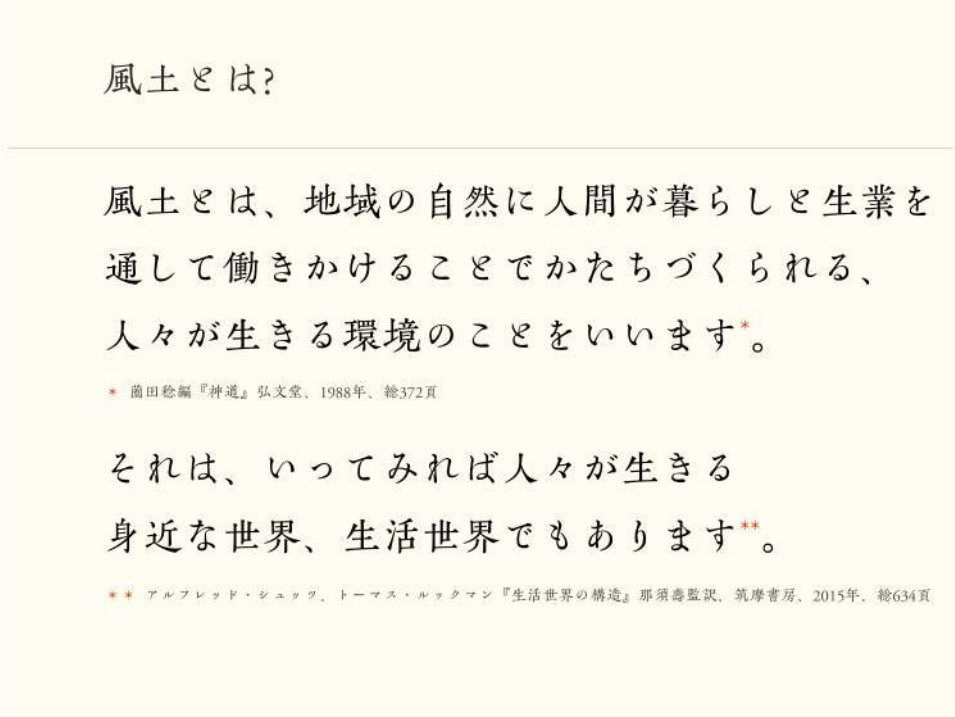
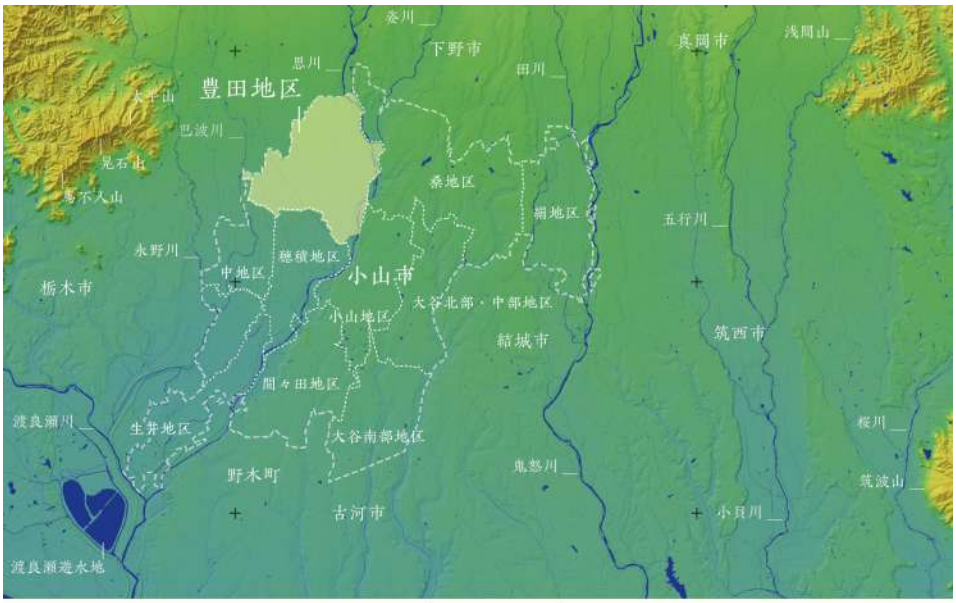


図 1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせて、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。なお、図 1 には再び風土の定義を示した。

出典｜薗田稔編『神道』（弘文堂、1988 年、総 372 頁）。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』（那須壽監訳、筑摩書房、2015 年、総 634 頁）

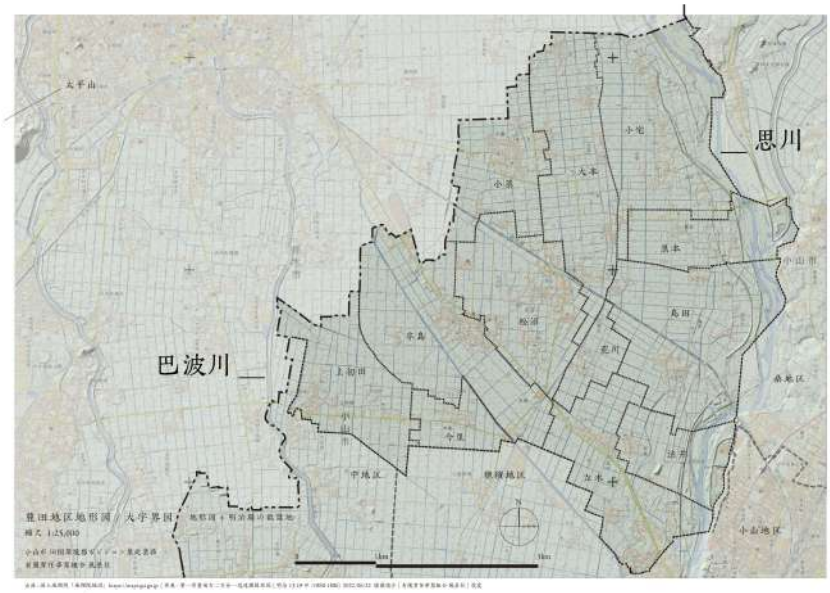


合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す｜出典: 国土地理院｜地理院地図 http://maps.gsi.go.jp/ (廣瀬改変 2022)

豊田地区は、小山市の北部 (北西) に位置します。

図 2 小山市の地区区分と豊田地区

市域は、旧町村の区分に基づいて 11 地区に分けられ、豊田地区はその北西端に位置する。

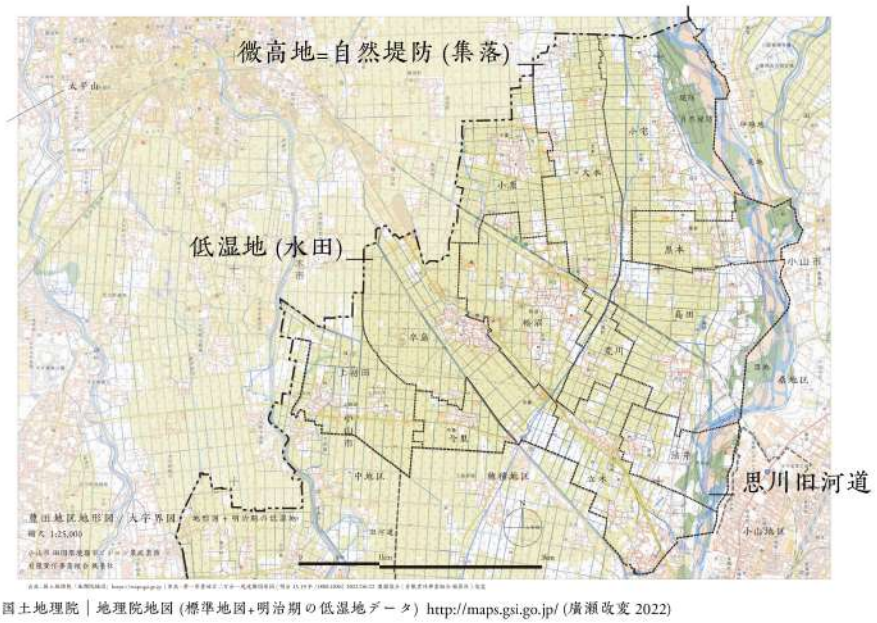


出典: 国土地理院｜地理院地図 (標準地図+陰影起伏図) http://maps.gsi.go.jp/ (廣瀬改変 2022)

豊田地区は、思川と巴波川に挟まれた低地に。

図 3 豊田地区は、思川や巴波川にかたちづくられた思川低地に立地する。

豊田地区は、小宅、大本、小薬、松沼、卒島、荒川、黒本、島田、上初田、今里、立木、渋井の 12 村が明治 22 年（1881）の町村制によって合併し成立した豊田村をもととする。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 (標準地図+明治期の低湿地データ) http://maps.gsi.go.jp/ (廣瀬改変 2022)

集落は微高地に、水田は低湿地につくられました。

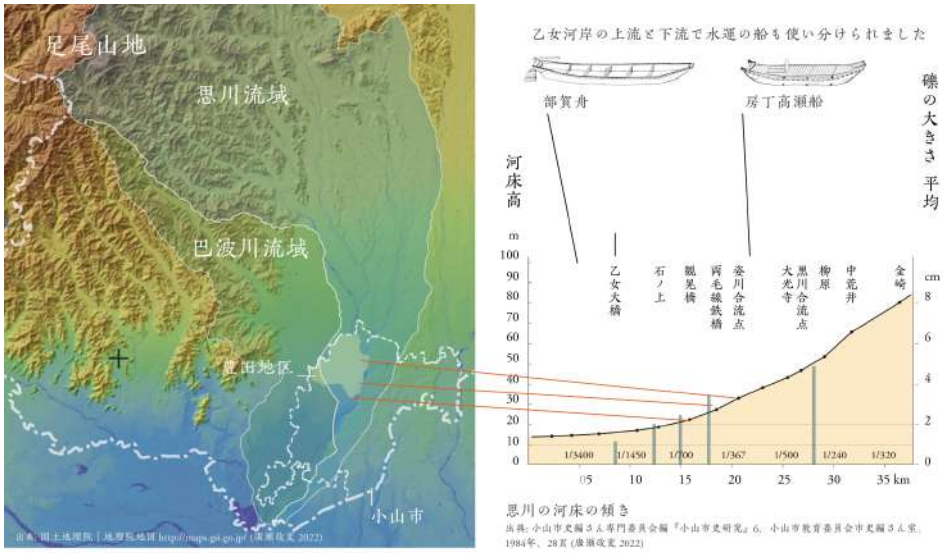
図 4 川が土砂を運び均してできた低地の細かな高低差に則り、先人は土地を利用してきた。

出典｜国土地理院「明治期の低湿地データ」原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速測図原図（明治 13-19 年）

谷新田、大本。2022/07/22　　桶田、小宅。2022/07/22

直径3 cm内外の角が円く減った石が、
水口で洗い出され、田の脇に上げられていますが…

図 5 水田に見られる円い石は、河原に見られる円い石と同じく川に運ばれたと考えられる。



思川・巴波川流域と地形、小山市および豊田地区の位置の関係

思川は「流域の半分が山地で、山地から急に平地に移」り、両毛線鉄橋までの河底の傾きが大。

出典：小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、14-19頁

図 6 思川流域と地形、小山市および豊田地区の位置の関係/ 思川の河床の傾き

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I』（小山市、1984 年、総 895 頁）14-19 頁

図 7 黒本橋から思川の河床を見下ろす。

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I』（小山市、1984 年、総 895 頁）19-20 頁

河床に見られる「泥層や粘土層」は、「更新世」と呼ばれる約 258 万年前–約 1 万年前に堆積した。

3 地域の自然への人の働きかけについて

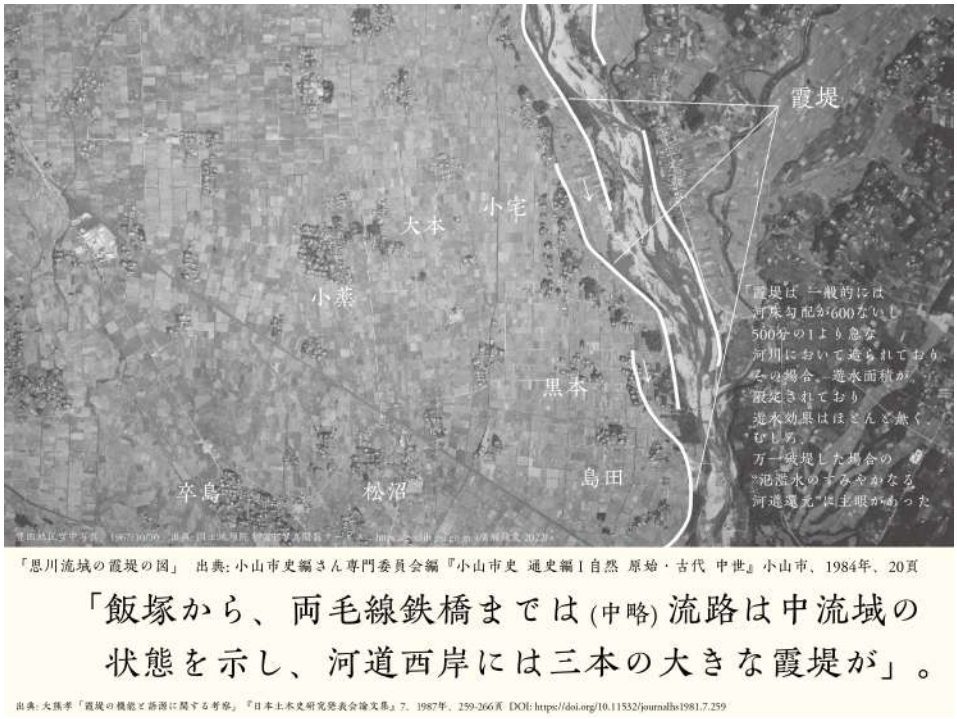


図 8 思川流域の霞堤の図をもとに、1967 年撮影の空中写真に堤防の位置を示す。

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I』（小山市、1984 年、総 895 頁）20 頁

図 9 「霞堤」は不連続の堤防で、河川中流域では上流であふれた水を川へ戻す機能を持つ

出典｜大熊孝「霞堤の機能と語源に関する考察」『日本土木史研究発表会論文集』7、1987 年、259-266 頁

小薬湧水池、小薬。2022/07/27

「思川低地の卒島から島田付近は、湧水帯を形成し、
それを水田に利用することも行われていた」。

出典：小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、31頁

図 10 小薬湧水池。ここからも水路が下流側へ引かれる

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 I』（小山市、1984 年、総 895 頁）31 頁

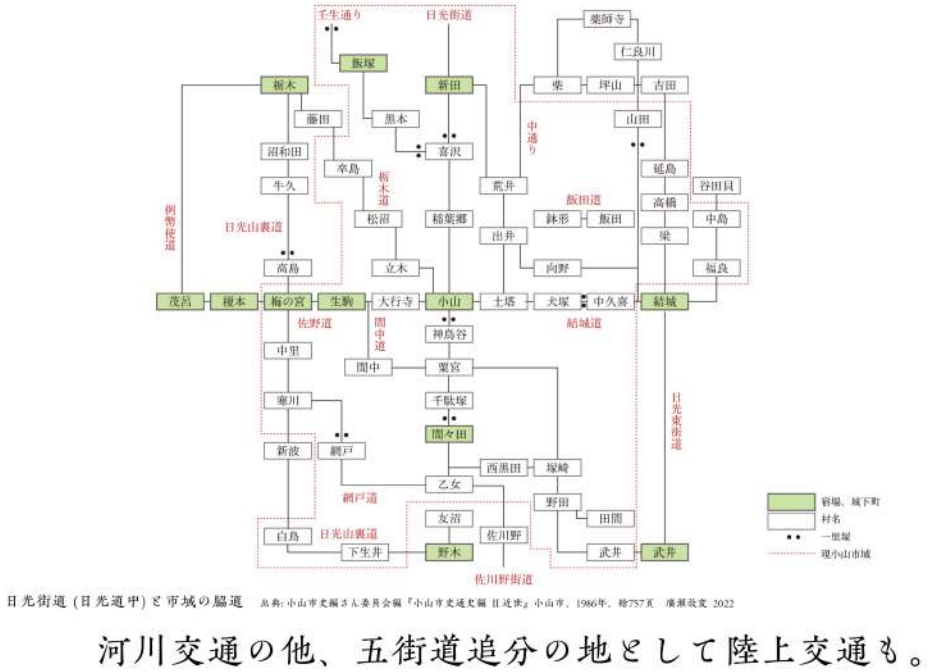
大内川、大本。2022/07/22　　立木上、立木。2022/06/24

微高地の上の集落に引かれた水に因んだ風景が。
立木上では日光街道の脇道、栃木道に沿って…。

出典：小山市史編さん専門委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978年、総699頁

図 11 写真左は川端の洗い場を写したもの。「洗濯は川端や井戸端でおこなった」

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 民俗編』（小山市、1978 年、総 699 頁）255 頁

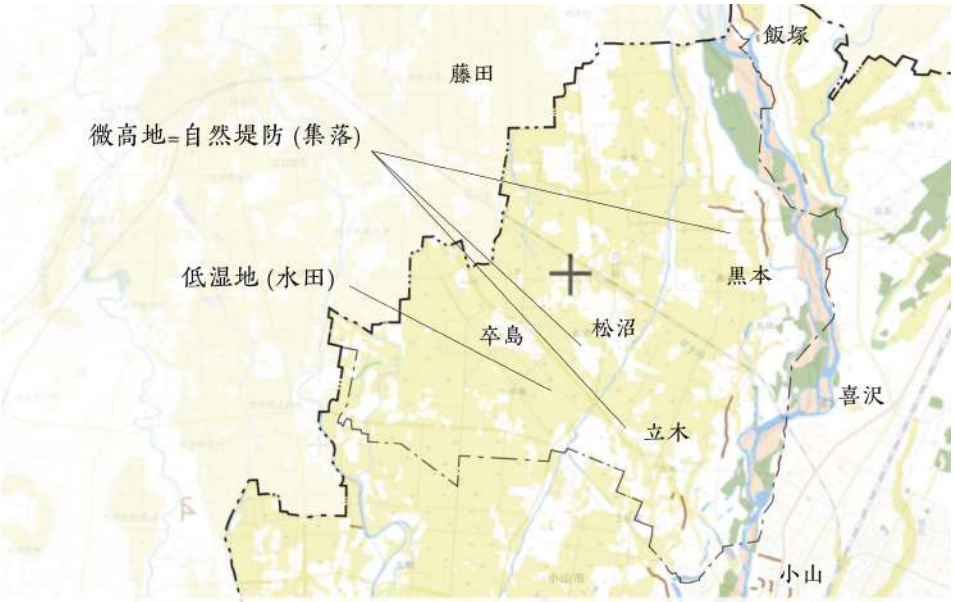


日光街道（日光道中）と市域の脇道　出典：小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、総757頁　廣瀬改変 2022

河川交通の他、五街道追分の地として陸上交通も。

図 12 日光街道（日光道中）と市域の脇道

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 II 近世』（小山市、1986 年、総 757 頁）260 頁



出典：国土地理院｜地理院地図（標準地図+明治期の低湿地データ）http://maps.gsi.go.jp/（廣瀬改変 2022）

立木、松沼、卒島の集落がのる微高地の間に道が。

図 13 改めて集落、水田と地形（微高地、低湿地）の対応関係を確かめる

壬生通りは思川右岸の連続した微高地に設けられたが、栃木道は微高地−低湿地上に整備された。近世以前の低湿地での道の工法には、地域に合った環境負荷の少ない技術の参考となる可能性がある。

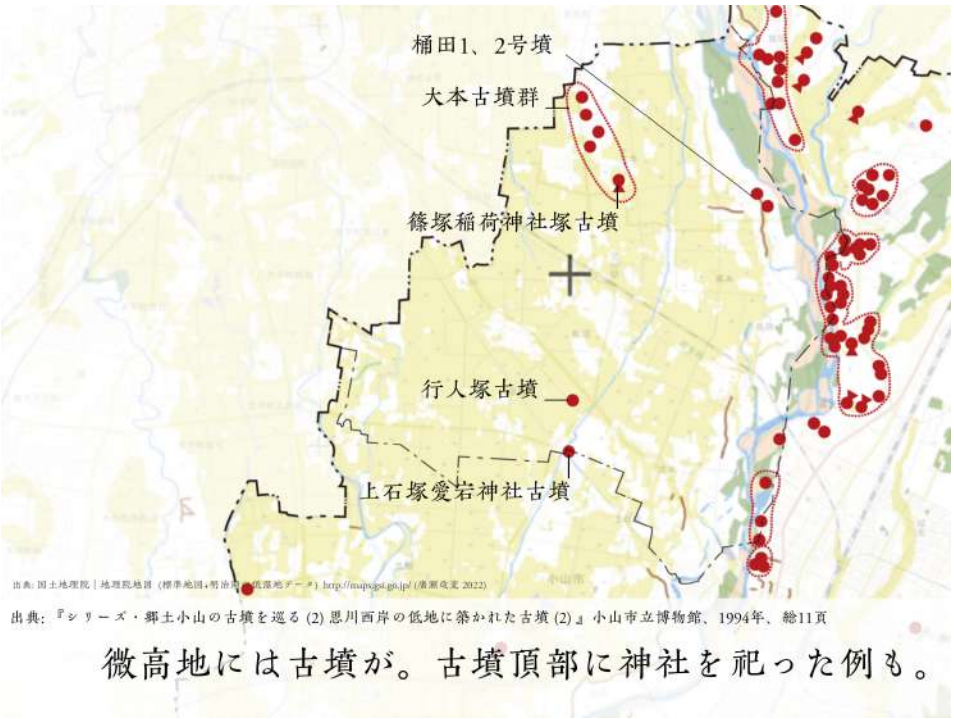


図 14 古墳分布と地形の関係。図の範囲では多くが台地西縁に、一部が微高地上に位置

出典｜『シリーズ・郷土小山の古墳を巡る(2) 思川西岸の低地に築かれた古墳(2)』小山市立博物館、1994 年、11 頁

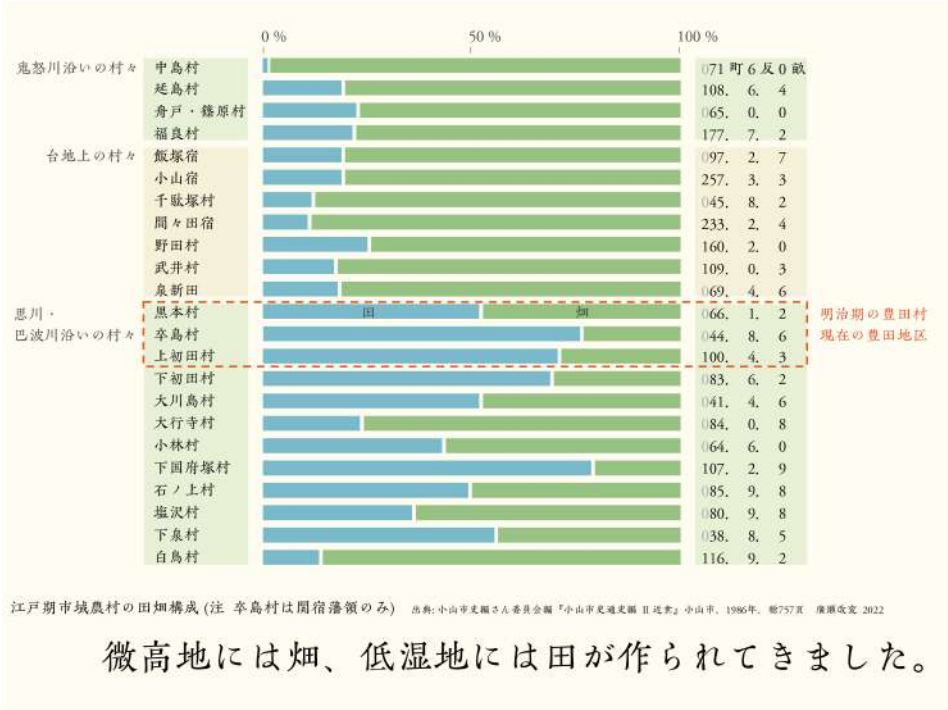


図 15 江戸期市域農村の田畑構成。幅の広い微高地が連続する黒本村では畑の割合が大

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 II 近世』（小山市、1986 年、総 757 頁）

図 16 市域の思川低地全体における微高地と低湿地の分布

北部では思川と巴波川が離れ微高地が分散する。南部では二川と沿川の微高地が迫り低湿地が狭まる。

	天領	旗本領	大名領	寺社領
卒島		久世鍼三郎	(久世出雲守・井上遠江守)	
小宅			鳥居丹波守	
黒本		渋谷采女		
島田		渋谷采女		
小薬		久世鍼三郎・福原内匠ほか	大田原飛騨守	※元禄期は祥念寺・長宮寺領
松沼		久世鍼三郎・福原内匠ほか		
荒川		久世鍼三郎		
立木		大久保彦八郎		※元禄期は満願寺領
渋井	北条雄之助			
今里		久世鍼三郎		
上初田			久世出雲守	
大内川		小笠原十左衛門・駒木根大内記…		※元禄期は祥念寺領
岡		渋谷采女・畠山上総介ほか		
桶田	北条雄之助			

※元禄期は6ヶ村を宇都宮藩、3ヶ村を古河藩が統治

出典:小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究2』小山市企画部市史編さん室、1979年、31頁 (廣瀬改変 2022)

天保1-15年 (1830-1844) の諸村の領主を確認します。

図 17 天保 1-15 年の諸尊の領主。元禄期に比べて藩領が減り、旗本領が増やされている

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究 2』（小山市企画部市史編さん室、1979 年）31 頁

	田		畑		宅地		平地林		原野		合計	
	反	%	反	%	反	%	反	%	反	%	反 ≒300歩（坪）991.736 m²	
豊田村	10,034	57.6	03,804	21.8	01,055	06.1	02,093	12.0	00.444	02.5	17,430	
穂積村	05,911	55.2	02,772	25.9	00.619	05.8	00.853	07.9	00.554	05.2	10,709	
中　村	04,951	66.0	01,533	20.4	00.650	08.7	00.312	04.2	00.055	00.7	07,501	思川低地
寒川村	03,642	64.7	01,466	26.0	00.424	07.5	00.080	01.4	00.019	00.3	05,631	
生井村	03,279	30.7	04,464	41.8	00.534	05.0	00.384	03.6	02,021	18.9	10,682	
桑　村	03,510	14.2	04,646	18.7	00.811	03.3	13,242	53.5	02,557	10.3	24,766	
小山町	01,237	11.0	04,240	37.7	00.470	04.2	05,013	44.6	00.276	02.5	11,236	室本台地
大谷村	03,306	12.1	05,756	21.1	01,004	03.7	14.554	53.3	02,692	09.8	27,312	
間々田村	02,378	14.0	05,560	32.8	00.717	04.2	07,777	45.9	00.514	03.0	16,916	
絹村	03,653	25.3	05,958	41.3	01,035	07.2	02,279	15.8	01,489	10.3	14,414	鬼怒川低地

明治27年（1894）における小山市域各町村の土地構成　出典：『下都賀郡統計書』小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、総1080頁

明治中期には、豊田村の田と宅地の面積は共に、
小山市域の町村で最も広かったと記録に残ります。

図 18 明治 27 年（1894）における小山市域各町村の土地構成

出典｜『下都賀郡統計書』。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』（小山市、1987 年、総 1080 頁）

思川中流域の低地の上の繊細な利用が生んだ風景。

図 19 思川中流域の低地上では細かな地盤の高低と環境に則した土地利用が行われてきた

全体には田園風景と映るが、下流側の地区に比べて思川の河床の傾きと思川低地の傾きが急であり、霞堤が設けられるなど治水方法も異なる。集落のつくりも、微高地の形や脇道との関係から個々に違う。

4 地域と人々の心身の結びつき

図 20 篠塚稲荷神社と篠塚稲荷神社塚古墳

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 民俗編』（小山市、1978 年、総 699 頁）599-602 頁

図 21 農耕馬と軍馬（軍が農耕馬を徴発）を祀る碑が建てられ、周囲は辻広場的空間に

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』（小山市、1978 年、総 1080 頁）369-372 頁

図 22 「四方紙」と書かれた札を張り、わらじを吊った棒が集落の入口に立てられる

出典｜小山市史編さん専門委員会編『小山市史 民俗編』（小山市、1978 年、総 699 頁）522-523 頁

図 23 卒島公民館が面する三ノ宮神社境内（左）。小薬城址、御城稲荷神社と小薬西公民館

当地区の寺社境内には、公民館を建てて人々が集い用いることで地域の広場とされた例が多く見られる。平時の催しに利用できる他、空間と樹叢の組み合わせが火災の延焼防止に役立つなど有用性が高い。

図 24 小宅下集落センター前の広場（左）と桶田「農地水環境保全対象河川」は同じ道筋に。

大人が地域で自治や生業を営む場が、子供の通学や自然観察などにも使われることで、それらの場が持つ意味合いや趣が豊かになる。今後は、子供の用途に対応して場をよりよく整えることが期待される。

図 25 集落内の道に開かれた住戸の庭（左）と納屋の下屋。

集落は地域の親密な人間関係を反映して、外部に対して閉じつつ内部では公私の空間が親密に結ばれた暮らしの場が形成されている。その人間的な趣には、外部から訪れる者が惹き付けられる面も備わる。

5 景観から読みとれるその他のこと

図 26 道が自動車優先でなく人のための場にも見える。沿道との関係もあってのことか

図 27 思川駅北口。杜の里ニュータウン（左）と同駅南口の小山環状線沿い

各集落の中の道路のうち、集落生活道路のみならず集落幹線道路も地域間を結ぶ道路と分けられているか分けられていなくとも（小山環状線）暮らしの場然としていて、人間的な地域再生の可能性が窺える。

図 28 田に水が入れられる期間に確認した生物のいくつかについて報告した

ホウネンエビの分布域の太平洋沿岸の北限は、宇都宮市である可能性が下記報文に記されている。

出典：南谷幸雄（栃木県立博物館）「栃木県におけるホウネンエビの分布記録」『栃木県立博物館研究紀要 自然』36、2019 年、21-22 頁

図 29 水田の落水後、水路の分水枡に残るヌカエビ他の水生生物

圃場整備、水路の人工環境化が進みながらも、保全区域だけでなく水生生物が残存する状況がある。

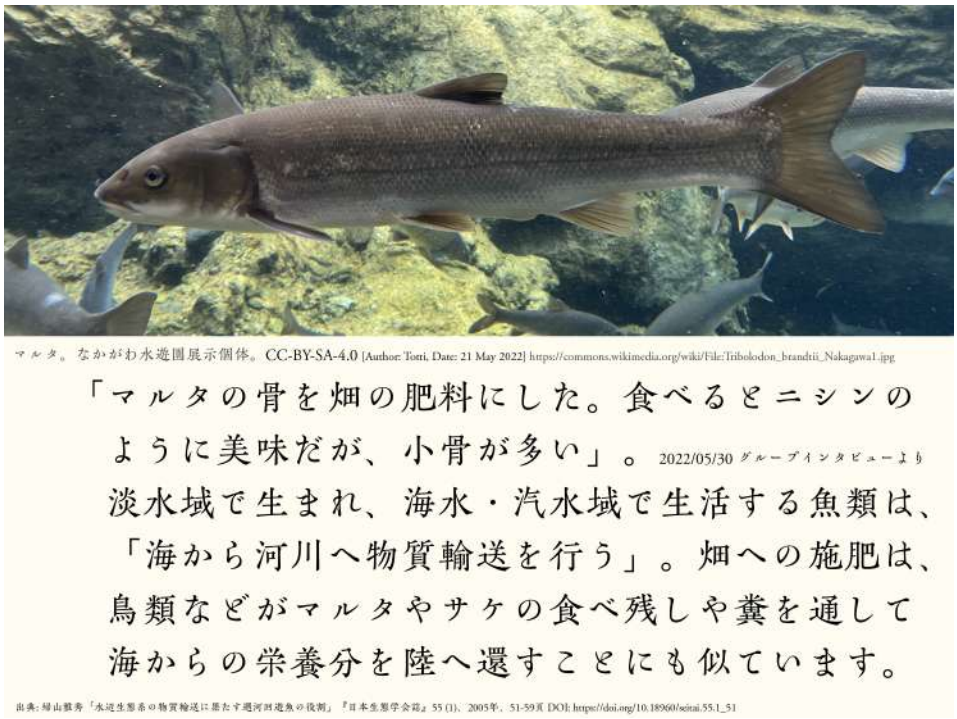


図 30 海と川を回遊するコイ科魚類であるマルタ

出典｜帰山雅秀「水辺生態系の物質輸送に果たす遡河回遊魚の役割」『日本生態学会誌』55 (1)、2005 年、51-59 頁

図 31 地区内各地で身近な水域、農業水路にすむ魚類などの生息環境改善を多世代で図る

アンケート調査設問 5「地区で『大切に守っていきたい』もの」への回答「子どもたちがのびのびと育つ自然環境」（2 位）、「多様な生き物がいる自然環境」（11 位）は、すでに行われてきていることとわかる。

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1 -1 目的について

豊田地区で暮らす人々の生活や意識をできうる限り実情に近いところで把握すること。

特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、豊田地区で暮らしながら、大切に守っていきたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、豊田地区および小山市域全体での田園環境都市ビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和４年５月から７月にかけて、下記の２種類の簡易社会調査を行った。

⑴ グループインタビュー（座談会形式）
⑵ 全自治会を対象としたアンケート調査

特に考慮したこと

全自治体を対象としたアンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や、提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこで、座談会形式のグループインタビューで語られたことをもとに、アンケートの調査票を作成することとし、まず、グループインタビューによる聞き取り調査を行い、その成果をもとに、アンケートの調査票の作成を行った。

⑴ グループインタビュー（座談会形式）

令和４年５月に下記の日程で実施。人選などについては、豊田公民館の協力を得て３つのグループを設定した。それぞれ５名～７名の方に豊田公民館にお集まりいただき、座談会形式で、２時間のグループインタビューを行った。地域の中でさまざまな活動をされている方々にご協力をいただいた。

第１回：5 月 24 日 18 時～20 時
　自治会連絡協議会より
　会長・副会長・理事の男性５名
第２回：5 月 30 日 16 時～18 時
　各種地域活動団体より男性４名女性２名
第３回： 5 月 30 日 18 時 30 分～20 時 30 分
　豊田わがまちげんき発掘事項委員会や PTA など子育て世代の男性４名女性３名

全３回に共通の質問内容（式次第に記載）

①自己紹介として～豊田地区とのご縁、仕事や地域での活動など、仕事や余暇時間での、ご自身とご家族それぞれの生活圏について
②豊田地区の昔と今。変わったこと変わらないこと
③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困りごと
④地区の有形無形のもので、大切に守り、未来につなぎたいもの
⑤都市部（小山地区や大谷北部）と田園部（豊田地区や生井地区）は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問（子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など）を加えて聞き取りを行った。

⑵ アンケート調査（紙の調査票）

豊田公民館、豊田地区自治会にご協力をいただき、紙の質問票によるアンケートを下記のような方法とスケジュールで実施した。

・５月末：広報おやま６月号の広報回覧時に、アンケート調査実施のお知らせを回覧
・６月 23 日：ワンタッチ封筒に質問票と依頼書を入れ、自治会ごとに仕分けし公民館に納品
・７月の広報回覧とともに各班に配布
・７月 19 日までに各戸から班長へ提出
・７月 22 日までに班長は自治会長へ提出
・７月 27 日までに自治会長は公民館へ提出

⑶ アンケーと調査（インターネット回答）

昨年度の先行調査・生井地区で実施した紙の調査票によるアンケートでは、在宅率が高い 60 歳以上の回答が７割を占めたことから、幅広い年齢層の回答も集めるために、紙の調査票でのアンケートと並行して、グーグルフォームを利用したインターネットでの調査も行った。

告知については、豊田地区在住者のみの回答とするために、ウェブやＳＮＳなどで不特定多数に向けた案内はせず、自治会の回覧及び、調査票とともに封入する依頼書にＱＲコードとともに「２人目以降からの回答について各世帯におきまして、紙のアンケートにご回答された方以外にもご協力いただける方は、右のＱＲコードよりスマートフォンやパソコンからもご回答いただけます」と記載した。

⑷ 回答率について：66.7%

●調査票の回答：1151 名：66.7%（全 1726 世帯）
●インターネット回答：17 名
合計 1168 名の回答の集計結果を、「小山市豊田地区 アンケート調査 集計結果報告書（2022 年９月 22 日版）にまとめ、別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、①書き起こしデータの作成 ②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの ③個人情報を抜いて、トピックやテーマごとに発言の概要をまとめたものという３種類の結果記録を作成した。③においては、発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次項の調査結果に掲載し、全データは、別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、「４ 調査結果の再整理と考察」に記載する。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章では 3 つのグループでの聞き取りの成果を掲載する。初めに、語られたことの概要を把握するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に 3 つのグループで語られたことを掲載する。

1｜自治会リーダーの方々

1：豊田地区との関わりや生活圏について
2：昭和 30～50 年代の豊田の子どもの暮らし
　2-1 学校給食
　2-2 地域社会と子ども
3：豊田地区の農業について
　3-1 昔の田植え
　3-2 稲刈り
　3-3 地域での助け合い、共同作業
　3-4 米俵と計量
　3-5 麦の栽培
　3-6 和牛の生産
　3-7 専業と兼業
　3-8 農業の継承について
4：豊田地区の祭り、神社、風習、慣習
　4-1 お囃子・祭り
　4-2 篠塚稲荷神社の初午祭
　4-3 おべっか（お別火）
　4-4 上初田の寅薬師、次世代に残すには
　4-5 お囃子～神田囃子と大杉囃子
　4-6 歴史ある各地域の寺社と盗難の問題
5：豊田地区の小さな自慢
　5-1 水と緑を守る会の活動や湧水のこと
　5-2 人間性のおおらかさ
6：解消したい困りごと～ポイ捨てや不法投棄
7：田園環境都市おやまのまちづくりについて
　7-1 都市と田舎
　7-2 農作業と新住民の関係

2｜地域活動の代表の方々

1：豊田地区との関わりや生活圏について
2：昔と今の変化について
　2-1 美田村の名前や経緯についての思い出
　2-2 戦時下の豊田
　2-3 その他：地区ごとの特徴
　2-4 人口の増減
　2-5 親睦の場でもあった個人商店の激減
3：豊田地区の農業について
　3-1 昔と今の変化～土地改良・大規模化
　3-2 農繁休業やイナゴ取り～子どもの手伝い
　3-3 農業の共同作業、互助
　3-4 稲刈りのはざがけ
　3-5 用排水と、地下水、川魚マルタのこと
　3-6 伝統食～しもつかれ、節分、つみいれ団子
　3-7 農家の兼業の 1 つ～麻綯（な）え
4：さまざまな地域活動
　4-1 篠塚稲荷神社の祭りと住民の参画
　4-2 お囃子
　4-3 子どもの居場所づくり
5：未来に残したい豊田地区の小さな自慢
　5-1 篠塚稲荷神社と初午祭
　5-2 飾り馬と流鏑馬について
　5-3 太々神楽の継承
　5-4 子どもと神社の祭り
　5-5 小薬で守っている薬師様、観音様、十九夜様
　5-6 遠くの山々の眺望
6：解消したい困りごと
　6-1 獣害のこと
　6-2 高齢者にとっての思川駅の不具合
7：田園環境都市おやまのまちづくりについて
　7-1 時代的な厳しさ、若い人と継承の問題。
　7-2 地域コミュニティと行事の継承

3｜子育て世代の方々

1：豊田地区との関わりや生活圏について
2：昔と今、子どもの遊びや活動範囲
　2-1 わんぱく相撲
　2-2 子どもの遊び場、今と昔
　2-3 自然の中での遊び
　2-4 用排水の堀さらいと生き物
　2-5 都市部の子どもとの違い
3：地域での活動について
　3-1 消防団
　3-2 学校との関わり
　3-3 人のつながり
　3-4 お囃子・豊田地区盆踊り大会
　3-5 新編豊田音頭
4：豊田地区で守り、未来に繋ぎたいもの
　4-1 祭り・お囃子
　4-2 人と人の繋がり
　4-3 将来の選択肢
5：解消したい困りごと
　5-1 上下水道
　5-2 狭い道路
6：田園環境都市おやまのまちづくりについて

次に、3つのグループごとに語られた内容の記録をトピックごとに記載する

1｜自治会リーダーの方々

対象者：50代後半～60代の男性5名の方々。生まれも育ちもずっと豊田地区の方2名と、進学や就職で市外、県外に出て暮らし、のちに豊田地区に戻った方が3名。
2022年5月24日 18:00-20:00 豊田公民館

1：豊田地区との関わりや生活圏について

◎豊田地区は、位置的に栃木市との繋がりが強い。生活圏は小山市と栃木市、その目的にあわせて栃木へ行ったり小山へ行ったり。東京はよほどのことがない限り行かない。
◎親は農家で息子は私一人。長男として跡継ぎにという親の期待はあったが、高校は商業高校に行って民間会社に入った。親の希望もあって栃木でと考えていたが、会社へ入ったら東京へ飛ばされ20 年間は東京、結婚を機に地元に落ち着いて会社員を続け数年前に退職した。子どもは東京に出て、ひとり暮らしをしている。
◎学生の時に2年間だけ東京に住み、それ以外はずっと地元に住み、会社勤め。早期退職をして、今は専業農家。農家の親の手伝いは、親も歳をとってきたので勤めながらでは無理だと判断して40 代で親の後を継いで農業をやると決め、退職した。
◎ずっと豊田に住んでいるが、勤めている間は、県外や宇都宮にもいたので、地元のことにそれほど関心は持てなかった。退職してから自治会の役を頼まれて幾つもやるようになって地元に関心が向いてきた。
◎大学進学で東京に出て、その後の会社員生活でもずっと外で暮らしていた。今は退職して気楽に畑仕事をしながら、頼まれれば地域のことをやっている。西へ 300 メートルぐらい行くと川があり、その川を境にして栃木市、北へ1キロぐらい行くと栃木市なので、普段は小山市内に住んでい

ても、地域的には小山と栃木を行ったり来たりという感じ。子どもたちは埼玉や東京に出てしまっている。

２：昭和 30～50 年代の豊田の子どもの暮らし

2-1 学校給食

◎今はどこも給食が当たり前だが、私らが小学校の 2 年か 3 年のとき（昭和 30 年代後半）、栃木県でもトップクラスで美田村では完全給食が始まって、豊田中もその波に乗って給食が実施された。牛乳ではなく脱脂粉乳。そういう時代だった。
◎栃木県の中学校では、豊田中の完全給食化が一番早かったと思う。
◎脱脂粉乳は本当に不味かったが、たまに色つきもあって、月に何回か小豆が入ってるようなものや、コーヒーのような味。それは楽しみだったのを覚えている。
◎記憶にあるのは、脱脂粉乳は表面に膜が張っていたことだな。
◎農村地帯ということもあるので、たぶん小学校とかは給食を推進していたのではないか。
◎最初は米飯ではなく、パンだった。コッペパン。
◎創立記念日には、給食にあんこが出た。
◎パンと一緒に食べる。揚げパンもあった。
◎特別にバナナも付いてきた。
◎当時は学校の中に給食室があって、そこで作っていたから昼近くなると、教室にもいい匂いが漂ってくる。そうすると余計に腹が減ってくる。
◎みんな腹減らしているから、いただきますと言うまで待っていられないが、コッペパンは先に食べてしまうと、分かってしまう。だから、パンのケツ（裏）から取って先に食べておく。
◎あんまり腹が減っているときは、学校から抜けてクラモチ文房具屋とかに行って、あんこ玉買って食べていた。
◎その後(昭和 40 年代後半～)、豊田の小学校が米飯給食の推進校のようになって、給食にお米のごはんが出てきていて、うまかった。
◎（昭和 50 年代）給食で脱脂粉乳を飲んだことはなくて、牛乳は瓶。ときどき三角のパックで出てきたことも。小学校ではパンが多くて、週に 1 回が米飯だった。中学になると、パンとごはんが 1 日おきで。味はおいしかったように記憶している。みんなで食べるから余計においしく感じる。

2-2 地域社会と子ども

◎子どもと地域の人の関わり：昔はこの地域で生まれ育って悪いことをしても、地域の人が温かく見守ってくれた。やはりまだ食糧難の時代で、小学校のときはプールも無いから、私らは思川で水泳。川に行くのに、夏休み、畑には高級な果物がなくて瓜とかそういうのしかないが、それを今では窃盗になってしまうが採って頂く。だけど農家の人も怒らない。「こらっ」とは言うけど、まあいいよという感じで。それが犯罪までにはならないという農村地帯のおおらかさの中で育った記憶がある。
◎確かに子どものころのほうが社会が穏やかだった。学校の帰り道、おいしい柿がなっていたら取って、見つかったら「こらっ」と言って怒鳴られるけれど逃げ帰る。それでおしまい。

３：豊田地区の農業について

3-1 昔の田植え

◎今は箱へ種をまいて育苗するが、昔は 1 m くらいの幅で田んぼへ直に蒔いていた。
◎ちょっと土を盛って、そこへ種をまいた上へ油紙を張る。それで芽が出る。出たら油紙は外してどんどん伸ばす。今度は、その苗を、だいたい主婦が担当して苗を取り何本かを藁で縛って、子どもに渡し、我々子どもたちが、田んぼで配る。それを手植えしていく。
◎配ったり、ぶん投げたり。配るのには、「ふね」を使う。板の上に、その苗をおいて引いていく。

そして植える人のところへ、ぽんぽん投げていく。
◎「ふね」は、有明の干潟のムツゴロウのところみたいに、水があるところを手で引いていく。だーっと端から一斉に配られた苗を順序よくばーっと植えていく。
◎植えていく間隔は、目安として紐を、端から端まで紐を張って、間隔を示す寸法のところに目印として玉っこが付いている。そこへ手でちょっちょっと植えていく。そういうのが田植えだった。

3-2 稲刈り
◎秋の収穫は、稲刈り鎌で刈って、それを束にして、これまた藁でしばる。竹とか木で三脚のように組んだものに棒を通して、我々は「ガボシ」って言うが、それに、稲の束を掛けていって、1ヶ月かそこら、干す。
◎台風がくると倒れる。それを起こすのを手伝わさせられると、水でびっしょりに濡れて重たくて大変だった。

3-3 地域での助け合い、共同作業
◎地域によって、助け合いの仕方も違うようだ。うちは、田植えの時に、県外の人が十何人とか20人とか来て手伝ってくれる。職人のように雇うというか・・・。
◎うちの自治会では、そういう田植え部隊ができて、1つのところの田植えが終わったら、他所に移る。応援というか1日いくらでお金はもらってくる。出稼ぎのようなもの。
◎「ひょうとり（日傭取り）」という。1日いくらでやる人と、受け取りと言って、10アール当たりいくらで請け負いますよという二通りある。受け取りのほうが仕事はたくさんやるが、ただ仕事は雑になっていく。
◎だからお金の問題でなくて、要は何件かあれば、お互いにちょっとだけ植える時期を変えていけば、みんな総出で、順番に、一軒ずつ全部の田んぼをやればいい。そういう共同で作業できるのが、田植え作業など。
◎田植えの時期が地域によって違う。だから地域外から来るということは、田植え終わっちゃったか、あるいはまだやっていない地域からお願いするということ。
◎人数勝負。時間勝負なのが田植え。
◎一番大変な人というのが農家の主婦。自ら田植えもするし、その手伝いの人に対して「まかない」もしなくちゃならない。寝ている暇がない。
◎機械が入るまで、50年前くらいまでの話。

3-4 米俵と計量
◎50 年前ぐらいまでは手作業の仕事が多かったので、親の世代は米の袋も夜なべして稲藁で編んでいた。私たちはできない。
◎俵は、ただ上手に編めばいいのではなくて、俵検査というのがあるので重さやサイズも正確に編む必要がある。食糧事務所で、米を入れた俵1俵当たりどれだけの重量かを計る。俵が不揃いだと、中に入った玄米が正確に計れない。
◎あんまり出来が良すぎても俵は重くなっちゃう。
◎台秤といって、米を計るはかりで測った。棒の先と先（端）に、重りと吊り手があって、重りを動かす。
◎農家はみんな持っていたはず。自宅で計って、それを出荷するとき、60キロなら60キロの重量で入れて、それを出荷して検査を受ける。
◎子どもの頃は、まだ家にあった。
◎うちは、今も納屋にあると思う。
◎冬の農閑期に、俵を編んだり、出稼ぎに行ったりして稼いでいた。しかし、今は、機械化になったから、それで収入が増えているかと言うと、機械の投資が多くて、収入が減っている。

3-5 麦の栽培
◎豊田地区の麦秋の景色は、毎年、ドローンで撮影されて下野新聞の誌面を飾る。麦を刈ったとこ

ろと稲を植えたところの幾何学模様のような風景が有名。
◎麦は、今は二条大麦だが、昔は六条大麦を作った。
◎二条大麦というのはビール麦のこと。六条と二条の違いは、二条は実が二条になって、六条というのは、ごつごつごつと六条になる。
◎昔は、米の生産が間に合わない時代もあった。今は減反政策されているけれど、昔は開墾して米の増産時代があった。そのころは米が追いつかないから麦飯というのを食べた。
◎昔は、押麦みたいにして米飯と混ぜた。ごはんを炊くと麦は軽いから上へくる。主婦が家族全員に平等にわたるように混ぜて食べる。今は健康食品として食べている世の中になった。
◎ハト麦は 10 軒ぐらい作っている。小山市はハト麦日本一を目指して小山市でやっているが･･･。
◎小麦は、栽培始めの頃あまり伸びなかったのは、小麦の収穫時期が遅かったから。梅雨に入ってしまう。また、小麦を刈った後、二毛作で稲を植えるのが難しかったから。今は品種改良されて小麦も早生ができたから、梅雨前の 6 月中旬には刈れる。それで小麦を作るようになった。
◎前市長時代に、イワイノダイチという品種などをつくって「小麦の里小山」として力を入れた。その看板はいろんなところに残っているが、生産者は減った。

3-6 和牛の生産
◎豊田地区での和牛の生産は昔に比べて随分減った。
◎小山市で生産する栃木和牛を小山和牛ということでブランド化してやっている。一時、BSE[1] が発生して、それでよく農家の人が例え話で「牛の尻に 1 万円札をつけて出荷する」と言っていた。飼料代とか、あるいは施設の減価償却をすると、赤字になってしまうと言う時代があった。
◎F 1 （交雑種）の飼育と、純粋種の黒毛和牛を生産する人がいた。
◎豊田で和牛の生産が多かったのは、西側に家畜市場があったことも影響。今は市場の建物だけ残っている。今から 30～40 年前までは「せり」をしていた。家畜商は、風呂敷に現金を包んできて、係の人に上納（前納）してせりに参加する。せり落ちされても支払われず、農家が不渡り出される可能性をなくすため。市場に参加する家畜商は、例えば 500 万なら 500 万持ってきて納め、その 500 万を使いきった段階で「せり」の資格はなくなるというルールで運営されていた。

註 1｜BSE: 1986 年に英国で初発報告された牛の病気。発病後 2 週間から 6 か月の経過を経て死にいたるもので、日本では 2001 年に初確認され、2009 年までの間に 36 頭の感染牛が発見された。2009 年 1 月に確認された牛を最後に、国内で生まれた牛での BSE 発生の報告はない。(農水省他自治体の公開資料より抜粋)

3-7 専業と兼業
◎専業か兼業と聞かれるが、規模は兼業と同じくらい小さくても、サラリーマンをリタイアした人は専業になってしまう、だから、専業と兼業の捉え方は難しい。豊田地区で専業でやっている人は土地利用型農業で大規模にやる人と、ハウスとかそういった施設型園芸で、野菜とか花とかそういう人と二通り考えられる。
◎会社を退職して親の農業を継いだが、頼まれれば近所の水田の手伝いをやりながら、畑は、自家消費分と親戚に配るくらいの規模でやっている。

3-8 農業の継承について
◎現実問題として、今、メインでやっているのが 70 前後の人ばかり。子供はいても独立していて、小山に分譲マンションとか何かできればそっちへ引っ越していく。宅地開発して戸建ての住宅ができたよというと残るかもしれないが。
◎後継者問題で国は積極的に農地の集約化を進

めているけども、現実に各集落で1人あるいは2人しか農業をやっていないし、その人が60代、70代。その人たちが農業をできなくなったら、もうやる人がいないのが現実。大規模農業を進めても良いかもしれないが、どちらかと言うと、家族農業の重要性を認識しなくてはいけないのではないか。

◎うちは兼業農家。兼業農家を維持するようにすれば、今、限界集落だとしても、集落も農業も何とか維持できる。兼業農家を手厚くすると地域の農業は維持できると思うが、国は真逆のこと、大規模にすればいいと言っている。しかし、大規模化した農家を見ているからわかる。大規模にすればしただけ大変になるだけ。

◎大規模集約化は机上の空論。例えば、1ヘクタールの作付けしている人が大規模化して2ヘクタール、3ヘクタール、4ヘクタールとどんどん増やしても、その倍、3倍、4倍と収入が上がるかといえば、上がらない。目が届かないから。今日あそこの田んぼに何をしたいと思っても、やっている時間がない。そうすると当然、収量が減る。

◎土地の活用がうまくいっていないのが現状。

◎親が残した農地を8カ所ぐらい持っている。私が農業をやっていないから、今は人に頼んで作ってもらっていて、農地を持っていてもなんの利益にもならない。

◎家族でやるから薄利でも頑張れる。それは人海戦術で人が汗を流して頑張っているから利益が上がるだけの話。土地を持っていてどうぞ作ってねと言ってもうまくいかない。

◎土地利用型農業で、土地があれば農業ができるわけではなくて、特に水稲の作付においては、絶対条件として水が必要、排水する施設も必要。土地改良事業で各地域でやっているが、経年劣化してそれを維持していくのが大変。それぞれの土地改良区が10アール当たり賦課金と言って5000円とか6000円頂いて、井戸を掘ったり、あとは堰を作ったりしてやっている。その経年劣化が進む。それを国、県あるいは市がどのような形で支援するかが今後の課題ではないか。

◎収入は伸びないが、土地の管理費的なものがコンスタントに上昇している。下がっていく傾向にはない。そうすると収入はあまりないのに、土地に関することばかりにお金を使っていて何の収入にもならないというのが現状。

◎農地を持っていると固定資産税はかかる。割引制度でかなり低めにはなっているが、持っているだけで税金がかかるので、遊ばせておくと、土地改良費がかかって、税金がかかって、収入がゼロという状態が続く。下手すると、兼業の人は、サラリーマンの給料からそっちを払っている状況になる。本末転倒な状態。そういう状態だから、農業は、なり手がどんどんいなくなってしまうという悪循環に入っているのではないか。

◎豊田では、新規就農者の話は、ほとんど聞かない。制度的には、新規就農者に対して国の支援策はある。しかし今の農畜産物価格では、自分の将来像を考えた場合、新規就農したいという人は出てこない。

◎今は飽食の時代だからまだいいけど、これから怖い。食糧安全保障条約ができないと危険ではないか。ロシアとウクライナの戦争でも・・・。

◎深刻な小麦不足になりそう。

◎パンにしても、米粉パンという方法はあるが、米を大量に粉にする技術が難しい。

◎農業をやらなくなった家庭が持っている農地は、市街化調整区域というところに該当していると自由に売り買いができない。だからやむなく持っている。そんな農地を企業が全て買い取って農業を行う、ということも考えられる。しかし、企業は利益が見込めないとやらない。

◎大手スーパーでは、農家と野菜などを直接契約しているところもある。直接取引が始まっている。だから県内の市場とかが調子が悪くなってくる。大手スーパーがどんどん進出してきて農家と直

接取引するようになると、県内の市場で扱う野菜も減ってくる。仲買で買う八百屋さんなども減ってくる。昔は各地区に八百屋さんも結構あったが、どんどん減っている。

４：豊田地区の祭り、神社、風習、慣習

４-1 お囃子・祭り

◎小薬地区は栃木と接している関係で、お囃子が盛ん。栃木の山車に乗るような神田囃子という五人囃子。それは小薬と中村ぐらいか、昔から残っていて熱心にやっている。地元のお祭りはもちろん、栃木のお祭りでも山車に乗ることを目指して、18 歳くらいからお囃子の稽古を熱心にやっていた。就職して東京で暮らしている間も、お祭りのたびごとに地元に帰ってきてお囃子をやるという生活だった。

4-2 篠塚稲荷神社の初午祭

◎小山百選に一番多く入っているのは小薬。
◎篠塚稲荷の飾り馬（初午祭）は、小薬と大本の中村が中心にやっている。
◎もともと小薬は城があって、城跡がある。そこが神社になっていて、そこと大本の少し上がったところにある篠塚稲荷神社とが連帯して、近隣一帯の祭りという感じ。
◎初午祭は、毎年３月の第２日曜日に開催。11 月は、23 日に例大祭。
◎コロナになってからはずっと、飾り馬は出さず、神事だけをやっている。
◎馬は、昔は、地区の農耕馬だったが、今はレンタル。桑地区の羽川の小山乗馬クラブから、年老いて引退間際の馬を借りている。
◎以前は黙々と馬だけを引いて、3 キロか 4 キロぐらいずっと歩いていた。
◎ここ 10 年ぐらいは、小薬のお囃子で馬の先導をしている。馬を引いて回るだけでは、いつの間にか家の前を通ってしまって気がつかないということで、お囃子が先導することになった。
◎いつ始まったのかはわからないが昭和の頭にはもうやっていたのではないか。
◎その前かもしれない。
◎飾り馬だけでなく、御神楽も。稲荷神社の管轄は大本中村の地区で、そこで御神楽を担当している。小薬は、御神楽は関係してない。

４-3 おべっか（お別火）

◎篠塚稲荷以外にも、地域地域に、それぞれ神社はある。ただ、継承する後継者がいない。
◎各自治会で年に 3 回、4 回、「おべっか（お別火）」という寄り合いが伝統的に続いている。だが、そのやり方がだんだん分からなくなる。高齢者に来てもらわないとわからない。
◎お別火は、それぞれの地域でそれぞれの季節に応じて、ある。年の始まりに初別火（はつべっか）。後は、地域ごとに、いろいろ・・・。
◎小薬は多い。観音様、薬師様・・・。
◎他に、台風別火というのもある。そういう寄り合いは、食べ物が付き物。要は、各地域の公民館に男性も女性も集まって、大鍋で食事をつくる。その年の係がいて、世話をして。昔は、米も少しずつ持ち寄って、大きな釜で炊いて、みんなで食事をしましょうというコミュニケーションの場。公民館には、大鍋が残っている。釜もある。
◎上初田では、子供の頃、集まって味噌を作って、醤油、あと、お茶もみんなで作っていた。
◎大きな釜を置く竈門がない。大きすぎて。どうするかというと、庭に穴を掘る。周りを落ちないように石か何かにして、そこへ釜を置いて燃やす。
◎コロナが広がるまでは、年に７回、８回、続いていた。
◎ただ、原則として各家庭から１人が参加するしきたりが、次第に参加する家庭も減ってきているのは事実。
◎みんなで集まって煮炊きするのではなく、お弁当を買って済ませるようになってはいるが、場合

によっては若い人と世代を超えてコミュニケーションを図る場所にはなる。仕事や行事を抜きにして、地域のみんなで集まる機会は、他には無い。だから悪くはない風習だと思う。親の世代の時は、別火に集まって、お囃子もやっていたらしい。秋の収穫が終わったからみんなで集まって騒ごうではないか、と。
◎昔は娯楽がなかったから、みんな楽しみで集まった。今は娯楽が多いから、人が集まらないのだと思う。

4 -4 上初田の寅薬師、次世代に残すには
◎上初田では、坂田屋さんの少し北側の薬師堂で、寅薬師をやっています。12 年に 1 度の寅年の御開帳で、お釈迦様の甘茶かけのときに供養するような感じのことをやる。
◎善光寺などに塔を建てて紐を通すようなことをしている。あれを薬師様の前でやる。
◎寅薬師は、後継者がいないことの心配も出てきて、どういうふうにやっていいかわからなくならないように、今、中心になっている 60 代や 70 代で、スマホやカメラで、写真を撮りながら次世代に渡そうとしている。
◎初午祭の飾り馬は、やり方などの伝承は、それぞれの世代で残っていると思う。
◎若い人も少しずつ出てきている。
◎稲荷神社の太太神楽は、後継者を適宜増やしながらやっていかないと続いていかない。

4 -5 お囃子～神田囃子と大杉囃子
◎お囃子は、子どものお囃子育成のモデル地区のような感じになっていると思う。コロナ前は、中学生に教えたりもしていた。
◎お囃子の団体は、あちらこちらにあったが、次第に人が減ってきて少なくなった。今は、小薬、大本、卒島、島田、黒本。
◎松沼なども前はやっていたが・・・。
◎同じ豊田でも小薬とか大本の囃子と卒島のは違うと聞いている。
◎卒島は小薬が行って教えてあげいるから、ルーツは同じ。
◎これは伝聞だが・・・。昔、日光東照宮を作るので職人さんが集まってきて、日光から栃木、鹿沼にも職人さんが持ち込んだものが入ってきて、その一つに神田囃子があって、小薬は栃木市に近いから職人さんが泊まることもあり伝えられたのではないかと言われている。
◎栃木市と関係が強いから、親父の代は栃木市の祭りの山車 2 台に乗って演奏したと言っていた
◎もともと神田囃子というのはお祝いでやる。夏祭りはもちろんだが、それだけではない。結婚式やお祝い事でやるお囃子。小薬には、大杉囃子もある。夏祭りは大杉囃子をやって、それ以外のお祝い事とかお祭りとか神田囃子ということで、2 種類覚える必要があり、練習は大変だが、それだけ面白味もある。夏祭りの盆踊りでやる大杉囃子は、ジャズのようなもの。4 小節を、笛、太鼓で延々繰り返す。笛の指示がないと、30 分も叩き続けるし、やめる合図があれば、パッと止まる。練習を続ければ続けるほど面白味がわかってくる。
◎盆踊りでお囃子を聞いた小学生が、やりたいという話はあり、子供たちにも教えていたが、今は、コロナで中止。

4-6 歴史ある各地域の寺社と盗難の問題
◎各集落に残る古い神社は、大切な場所だが、銅板や賽銭などの盗難がある。神社の屋根は銅板で作るのが普通だが、建て替えや修理の時に、瓦やトタンにするところも多い。銅板は、全部持っていかれるという被害を聞く。上初田の（愛宕）神社は、20 年前に新築した。巴波川に近く、氾濫の被害を防ぐために 2 メートルくらいかさ上げして作ってある。そこも屋根の銅板が盗難に遭うかもしれないということでカメラを付けようかという話も自治会の中では出ている。
◎2 カ月前ぐらいには本当に小さい社の銅板を全

部持っていかれたという被害もでた。
◎一番盗まれたのは太鼓。
◎昔はそういう盗難は無かった。
◎神社の脇が壊されて、中にしまってある太鼓が盗まれたという被害もでた。
◎自分のうちの裏の神社も屋根が銅板で、時々、神社の周りを知らない人が回ったりしているのを見かけると心配になる。夜に家の裏の窓を開けたら神社の中を覗いている人がいたり・・・。
◎賽銭泥棒の対策では、祭があれば、その日のうちに係が全部回収する。普段は、普段は鳥と蛇とが入らないように金網でふたをして。
◎正月の三が日は、係が毎日回収に取りに行くようにしている。
◎大きなさい銭箱が山の中にぶん投げてあったこともある。
◎バチが当たると思わないのか。

５：豊田地区の、小さな自慢

5-1 水と緑を守る会の活動や、湧水のこと

◎限界集落のようなところでもあるので、月に１回のみんなの顔合わせも兼ねて、クリーンクラブという「水と緑を守る会」の活動をずっと続けている。具体的には、稲作用の用排水を維持していこうと、川をきれいにする活動。そして川沿いに、スイセン、アヤメ、アジサイ、ヒガンバナを年川の隣に植栽している。２月３月にはスイセンが出ていて、４月ぐらいになるとアヤメの紫が出ていて、５月末から６月になるとアジサイがずっと咲いている。
◎４月には、川の中も掃除する。コイがたくさんいる。塩ビのパイプが、100 もしくは 125 径ぐらいで３メートル長さのものがあった。砂が入っているものだと思って、湧水の水のところへ流したら、ナマズが十何匹と出てきた。
◎夜になると家の中にいても、水の音がする。コイが草を食べる音や飛びはねる音も聞こえてくる。それだけ田舎で静かだ・・・。
◎ホタルは見なくなった。湧水ではあるが農業排水とかそういうのが入ってしまっている、農薬が入ってしまうからか、ホタルは今のところ見ていない。
◎小薬地区内は基本的に水が湧き出していてきれいな川。川の清掃やら花を植えたりゴミを拾ったりで年に３回も４回も活動している。
◎生き物調査をすると、ツグミとかセキレイなどの鳥もいる。
◎年間を通じて降った雨が染みてそれが湧き出してくる状態だが、農業用水でくみ上げてしまう時期だけ水が枯れてしまう。田植えも全部終わると、1カ月もするとまた自然に湧き上がってくる。
◎今里は通年流れている自然の川はほとんどないので、水に関してはあまり縁がないが、夏の暑い時期にはカエルの大合唱が聞こえる。いいのか悪いのかわからないが、田舎ならではで、町場の人は体験できないこと。
◎昔は土水路が多かったが、用排水の改修工事が進められて U 字溝になった。以前、土水路の時は、それぞれの家庭から排水が土水路へ流されていたので、竹の棒か何かで突っつくと、泡が（雑排水で）ブクブクと出るような時代があった。U 字溝になると同時に、地域によっては、農業集落排水事業で（浄化槽ではなく）ミニ下水道が普及しているので、水が綺麗になっている。
◎川沿いの美化活動は、国の直接支払交付金という制度（農地・水）制度で。

5-2 人間性のおおらかさ

◎豊田地区の人たちは、人間性が豊かでおおらかな人が多い。他の地区から仕事で来た人も、そういう印象を持っている。
◎仕事で豊田地区から出ていたりして、いろいろな地域の人間を見てきたが、純朴で悪いことをしない人が多い。
◎争いごとがなく、平和。

６：解消したい困りごと～ポイ捨てや不法投棄

◎どこの地区もあると思うが、ごみのポイ捨てが多い。拾っても拾っても、捨てられる。看板を設置しようがほとんど効果がなく、増えてきているような感じ。道端に捨てられるのならまだしも、田んぼの中にビンとかカンとか金属類とか入っているので機械の故障にもつながってしまう。
◎交通量の比較的多いところも少ないところも。交通量の少ないところは、大きなごみが捨ててある。45 リットルぐらいのごみ袋で捨ててあることもあるし、粗大ごみもある。
◎看板の脇に、わざとのように捨ててある場合も。
◎多いのが、ペットボトルのポイ捨てと、ごみ袋。私は、近所だけで、2 月に 6 袋、5 月に 2 袋、片付けました。写真も撮っているが、大きい袋が 6 袋、道路に置いてあった。5 月は、川の中にぶん投げられていた。
◎家庭から出るようなゴミや、衣類、釣り道具も。
◎通勤している車から捨てられていることも多いようだ。
◎紙おむつも多い。

７：田園環境都市おやまのまちづくりについて

７-1 都市と田舎
◎小山市全体は田園都市環境ということで、それぞれ土地部と農村部を一体化していくのはいいことだが、小山市全体を一つとして考えるのではなくて、各地域のそれぞれの風習、そういうのを有効に活用してほしい。その中には当然、豊田でもサラリーマンの人もいれば、他産業の人もいる、農家の人もいる。そういう人たちが都市と田園構想を打ち出すのが一番いいのではないか。最初から大きい視点でなくて、各ポジションでやってそれを一つにまとめ上げる。
◎市街地中心部にいる方は、そこが必ずしもいいと思って住んでおられるかは分からない。いろいろな理由や背景があるのではないか。農村部に住んでいても街中のほうに住みたいと思う人もいる。自分の場合は、東京に住んでいたことがあるが、ゴミゴミして人が住むところではないと考えて地元に帰ってきた。若い人も東京へ遊びには行くが住もうとは思わないと思う。都市部も田園部も、はるかに小山の方が環境はいいと思う。
◎20 代の頃、東京の食堂で出る味噌汁やご飯は、カルキ臭のような臭さがあって、食べられなかった。水も米もおいしい豊田で育つと、敏感になる。
◎田舎は、おいしいご飯を食べられていいと思うし、それは大切なこと。

7-2 農作業と新住民の関係
◎都市部から豊田に引っ越してきたような人へは、気を使わないといけないようなこともある。田んぼの近くに新たに分譲地とかができたりすると、田んぼの作業がやりにくい、という話も聞く。トラクターで田んぼに耕しに行って、作業が終わって道路に出ると、道路に泥が落ちて道路を汚してしまい、それが分譲地などの住民の方達に嫌がられる。ある人は、ほうき持参で、作業が終わった後、道路に落ちた土をほうきで掃いてから戻ってくるそうだ。うちも分譲地の隣に畑があるが、それなりに気を使っている。
◎豊田ではなく、他の地区の人から聞いた話で、トラクターで作業をしていたら、近くの家で夜勤明けで寝ていた人から「うるさくて寝られない」と苦情が来たことがあったそうだ。あとから移り住んできた人からいろいろ言われると、農業もやりづらくなってきている。
◎昔は農地転用して、そこへ家を建てて新しく来る人がいると、「書類にはんこを押してください」と向こうが頭を下げてきて、「大丈夫です、いつトラクター作業やってもいいですよ」と言っていたのが、近頃では元々の住民の農作業の都合より、自分の権利を主張するような人も増えてきているのは、事実としてあるようだ。

2｜地域活動の代表の方々

対象者：6名（男性4名、女性2名）60代以上
生まれ育ちも仕事も豊田の方、就職で県外に出てUターンした方、県外から嫁いできた方など
2022年5月30日 16:00-18:00 豊田公民館

１：豊田地区との関わりや生活圏について

◎生まれも育ちも豊田地区の人は、仕事の退職後地域のさまざまな役が回ってくる。
仕事で市外に出ていて退職後（早期退職も含む）に豊田に戻った人も多い。ひとりで23もの役についている人もいる。
◎古い家も多く、17代目、15代目などの人も。

２：昔と今の変化について

2-1 美田村の名前や経緯についての思い出

◎50年以上前に宇都宮の大学で学んでいた頃、自分が美田村の出身ということで、社会科の教員から以下のような依頼を受けた。「県内では一揆が起きないところが2つあり、その一つが豊田村。米どころであり「豊かな田がある村」だから。ところが美田村に名前を変えた（1955年（昭和30年）2月11日 - 穂積村、豊田村、中村が合併、美田村が成立)。どうして「美しい田んぼの村」に名前を変えたのか、役場に行って聞き取りをしてきなさい。」

美田村役場の助役さんの話では、三村ともに米作地帯だから「美しい田んぼの村」にしたという説明。その先生は「豊かな土地である」ということを名前で残したほうが良いという考えであったが、決まってしまったので仕方がない。

2-2 戦時下の豊田

◎豊田にも機銃掃射の爆撃はあった。昭和19年に入学したが、校長先生は、今では考えられないが鉄兜をかぶっていて、朝の先生たちの打ち合わせが終わると、双眼鏡を持ってずっと朝礼台の上に登って、空を見ていた。南の空を見て、大きな白い米軍機が見えると、空襲だ、生徒はそうすると、今度は白い大きなきれいな飛行機が、今で言うとボーイング B29 かな。2 機ぐらい飛んでくる。「ああこれは空襲だ。子どもはすぐ帰れと！」となり、勉強しなくて済んだ。
◎大人から言われていたのは、「川の中に隠れるな、鉄道のそばには行くな。」ということ。飛行機というのはまっすぐくるからだと思うが。田んぼの藁の中へ隠れろと言われていた。
◎戦争時代は大変だったが、子どもたちは、戦争ごっこをよくやっていた。やがて、ベイゴマやコマ回しの遊びに変わった。

2-3 その他：地区ごとの特徴

◎豊田は、歴史的にも優れたものをもっている。特に小薬。小薬城は、鎌倉時代、北条家との争いで島流しにあった梶原景時の息子が築いたという言い伝えがあるようだ。それが今、二条という小薬というところにあるが、そこにある稲荷神社がおそらく城跡だったのではないか。神社とかお寺とか、そういうものが、歴史的に関係があるのではないか。
◎小薬は、お寺が多いところでもある。小僧として入って、いろんな話を聞かされた。
◎豊田は地区ごとに昔から特徴がある。生まれたのは南部の卒島（そしま）。栃木街道が通り、町場が栄えていた。酒屋、うどん屋、豆腐屋など店が多くあった。その後、黒本に引っ越したが、黒本は穏やかで、子供の頃はみんな川へ行って水遊びをした。きれいな思川で泳いだことは幸せな思い出。
◎うちは北東の端、小宅で代々続く家だが、昔は、壬生藩に仕えていたとも聞いている。
◎ひとつひとつ地区ごとの特徴をまとめると、豊田という豊かな田んぼの村が出来上がってくる

ような気がする。昔と今ではずいぶん様変わりもしてきたが。

2-4 人口の増減

◎農家の子どもは、家を継がない人は、色々便利な地区に出てしまい、豊田から出る人も多い。なかなか農家として残る人は少ない。

◎その一方で、思川駅とか学校とかに近いところは、住宅が増えている。

本報告書 P59 参照：国勢調査に基づく小山市統計年表より「地区別世帯・人口数の変化」の資料を作成した。人口数の増減に関しては、生井・寒川・中・穂積・桑・絹の地区と同様に、H12 年度から H17 年度、H17 年度から H22 年度、H 22 年度から H 27 年度までは、減少を続けてきたが、H27 年度から R2 年度のデータでは、豊田および桑地区は増加に転じている。例えば、その 5 年間で、中地区は 284 人の減少（増減率：マイナス 11.50%）、寒川地区 164 人の減少（マイナス 11.00%）、生井地区 185 人の減少（マイナス 9.70%）に対して、豊田地区は 108 人の増加（プラス 1.50%）である。豊田地区は、H12 年度から H 27 年度の人口増減率は、マイナス 2%台～マイナス 4%台を推移していた。

2-5 親睦の場でもあった個人商店の激減

◎思川の駅の周辺でも個人の店が減った。

◎スーパーができたら、みんなスーパーに行く。

◎昔は、卒島は宿になっていたから、下駄屋さん、造り酒屋も。

◎子供の頃は、豊田の中の買い物で何でも賄えた。

◎転換点は、勤め人が増えてきた頃ではないか。

◎思川駅前には、眼鏡屋さん、薬屋さん、豆腐屋さんもあった。小薬も豆腐屋 2 軒もあった。

◎パチンコ屋とか、何でも屋の百貨店もあった。

◎昔は、そういう地域の店は、品物を買う以外にコミュニティの場と言ったらおかしいかもしれないが、そこに集まって会話するのがいいという、そういう場ができていた気がする。

◎今は、そういう買い物を兼ねて地域の人が集まる場がない。

◎コンビニはあっても、品物が高い。

◎ただ、小分けして売っているから利用しているだけ。

◎昔は、主婦ももう作業やらで忙しくて買い物も行けない。だから、農協もカタログ販売があった。衣類とか全部申し込みを取って、品物が届くと、うちの母はリアカーに一杯載せて、注文があった家へ配っていた。注文もたくさんあった。

◎その手間の収入は自治会の女性の婦人会の会計に入っていた。60 年くらい前まで。

◎公民館ができた時に、何がいいだろうと話し合って、その収益を充てて黒板を買った。女性にして黒板なんて生意気だと非難もされた。男尊女卑の時代。女の人が上へ出ることは絶対ない時代。落成式に来賓の方が、この公民館は黒板があるのが素晴らしいと褒めてくれて、母は鼻が高かった。母のことを非難した人はしぼんでいた。母がよくその話をしていた。

３：豊田地区の農業について

3-1 昔と今の変化～土地改良・大規模化

◎地域活動の中では、自分のモットーの率先垂範で、困っている農家をどうやって助けようかということが一番の課題。今まで農家は人数が多かったが、どんどん減っている。この美しい環境を作っているのは誰だ？と言ったときに、やはり農家である。消毒もしないといけない、蚊が出る、虫が出るといろいろあるが、秋になれば刈り入れの時の美しい景色と、収穫の喜びがある。

◎農家の人は大型の機械で作業をするようになって本当に農家をやっている人は少なくなった。今までの豊田地区、穂積地区、中地区、このうちの農家をやっている人を全部吸収したぐらいの数になっている。昔は、二町五反というと「がんばってやっているな」と感じたが、今は（大規模

集積化で）50 町やっている人も。そういう変化の中で、やるべきことができなくなってしまう。堀の泥上げ、消毒、草刈りなど。後継につないでいかないといけないが。
◎昔は、小さい田畑がデコボコでごちゃごちゃとあった。大型機械が入るように土地改良で、整理して平らにして・・・。広いところだと 1 町歩、1 ヘクタール ある。
◎土地改良で、水は便利になった。昔は、田植えも手植えだったら、今はみんな機械。

3-2 農繁休業やイナゴ取り～子どもの手伝い
◎小学校のときには、農家の手伝いということで農繁休業というのがあった。
◎田植え、稲刈り時期は、子どもも手伝うために 1 週間休みがあった。
◎農繁休業は、今、70 代後半以上の方々の子供時代（70 年前。戦後から 1950 年代くらいまでか）。その一回り下の世代では、学校が休みにはならなかったが、学校の帰りには田んぼに直行して、手伝っていた。稲刈りの頃は、道端に荷物を全部置いて、はぜ掛けを手伝って、終わってから帰ろうとすると、ランドセルはもう夜露でびしゃびしゃになっていた。
◎イナゴやタニシ取りも子どもの仕事だった。
◎学校に、佃煮屋さんが買取りに来る。タニシを売ったお金で、学校の音楽設備を買う、イナゴは、マットなど体育設備に。だから、一生懸命に取っていた。
◎授業中にイナゴ取り大会もやった。一番になりたくて、前もってたくさん取ってもっておく子もいた。それくらいイナゴがたくさんいた。

3-3 農業の共同作業、互助
◎田植えは、隣近所と一緒に順番に皆で助け合って必死に田植えをやった。そのときにわれわれ子どもは苗配りを手伝って。学校休んで。昔は田植えの期間というのは 1 週間とか 10 日とかの期間でやらなくてはいけないので、大勢の人手が必要。だから、田植えに合わせて学校が休み。子供たちもで手伝いをした。
◎農作業以外にも、お祭りをはじめとして、いろんな行事を、隣近所で一緒に楽しんでいた。田植えが終わった後の「さなぶり（さなぼり・早苗宴）祭り」というのがあって、みんな集まって夕食をごちそうし合っていた記憶が残っている。
◎昔はそれぞれの家の茅葺き屋根も部落総出で取り替え作業をしていた。そういう屋根仕事も、田植えの話も、あそこのうちは遅れてしまったからみんなでやってやろうと、そういう「結い仕事」というのが非常に多かった。地域の結びつきであり共同生活であり。これが今、薄れているが、また復活できるようにということで、社協や自治会など、地域の団体が頑張っている。
◎昔は田の草取りが大変だった。地道に顔を突っ込んで手で取っていた。そこへ除草機が出てきて、馬にひかせるのが出て・・・。剣山のお化けみたいなヤツで、それをひっくり返して、縄を四方につけて、2 本ずつ持って、二人で動かす。呼吸が合わないと、うまくいかない。
◎昔の農具～まだ残っている家もある。昔の農道具だの全部集めて展示し、保存するような建物があっても良いのではないか。昔の脱穀機などを展示している場所も、他にあるが、ここでもまだ納屋に残っている家が多いから、学校の廃校跡などに、我々も集めてはどうか？
◎米俵を測る、はかりも、まだ家に残っている。動くかどうか分からないが。

3-4 稲刈りのはざがけ
◎はざがけして干した米はうまい。
◎その支柱は、竹も使うが細い木（ながら）が一番もつ。
◎竹だと割れるが、竹林が家の前にあって、竹を利用する家が多かった。
◎みんなで寄り合って竹を組んで、そこへ全部ひ

っかけて、おふくろが「みんなご苦労さん」と声かけて、これで終わりだなと言って帰ろうとしたら、ぼきぼきぼきと折れて倒れてしまったことがあった。もう本当に涙が出た。
◎稲を干すことを「ガボシ」とも言うが、いろんな組み方がある。竹で組んで引っ掛けたり、互い違いに一本の木を出しておいて、そこに組んでいくやり方など。

3-5 用排水と地下水、川魚マルタのこと
◎農家も機械化機械化で、機械に追われているから大変。U 字溝の設置で、水の通りはよくなったが地下水が低くなり、なかなか揚がらない。湧水も、昔は、たくさん出ていた。小薬は 4 か所か 5 か所から出ていた。それがもう全然水が上がらなくなった。今出ているのは 1 か所だけのようだ。あれはずっと残したほうがいいと思っている。
◎結局、田んぼの規模が大きくなって、水の量も多くなるので、地下水から水を揚げる。上流の栃木市の方では、200 のやつ（ポンプの容量のことか）が揚げている。こっち、下でやろうと思っているのは、だいたい 100 か 125 ぐらい。地下水の水面も下がってきているから、水が上がらなくなる。
◎地下水の問題は、思川で砂利を取る工事があった時が、一番凄かった。それが大きな原因で地下水が下がったと聞いている。昭和 20 年後半から 30 年前半。思川から思川駅前まで馬車で砂利を運んでいるのをよく見ていた。
◎思川駅から汽車で積んで運んでいた。東京や大都市の道路つくるのに・・・。
◎砂利を取ったから土だけ残った。そこが草ぼうぼうになって、今はイノシシが棲むようになっている。
◎春には、マルタが利根川の河口から思川にあがってくる。長い魚で骨が多い。それが群を成してあがってきている。子供の頃からいる。
◎春の時期になると、浅瀬のところで何か黒く波打っているなあと見ると、ビッシリいる。
◎骨が多くて食わない。昔は畑の肥料にしていた。

3-6 伝統食～しもつかれ、節分、つみいれ団子
◎小薬のいきいきクラブでは、旧の初午の時に、全部の会員が自分の家のしもつかれを持ち寄る。7 軒あれば 7 軒、味が全然違う、それをみんなで食べ合っている。「しもつかれフォーラム」と名前をつけて、こんな味もあるんだと話しながら食べ比べで結構盛り上がる。「しもつかれブランド会議」との交流もある。
◎家によって味が全然違う。出汁を出すのが鮭頭。その頭が最近は塩が少ないようで味が変わってきている。
◎薄くなってきている。冷たくてよし、温かくてよしと、どちらでも食べられる。野菜もこれ以上置いたら腐ってしまうような余り物の野菜と、豆も、豆まきして残した豆、残った豆、そういう寄せ集めでつくる。
◎豊田地区のは、どちらかというと、塩分が多いかな。
◎子どもの頃は、好きではなかった。食べられなかった。
◎食べないと、初午はこないから。
◎結婚して県外から豊田に来て、最初は苦手意識があったが、自分でもつくるようになって食べられるようになった。
◎節分といえば、最近は、声を出さないね（鬼は外、福はうち）。私一人、いいおじいちゃんだけが声を出している。あれは声を出せなくちゃ駄目だ。今は、そういう人がいない。鰯の頭を柊に刺して、厄除に飾ったりもするんだが。
◎今は、声を出すのが恥かしいとなるんだ。
◎みんな、恥ずかしがる。
◎豊田では、昔は「つめ入り団子」を食べていた。だご汁のようにして食べる。最近は聞かないが。
◎うどん粉で作って味噌汁に入れたりする。
◎ああ、味がしみてうまかったな。

◎そばも団子にして、そういう感じで食べていた。
◎かさましするのに、ごはんの中にサツマイモを入れたりしていた。
◎あれは嫌いだった。
◎うまかったのは、里芋ご飯。
◎だけど学校へ弁当で持っていくと、見られるのが嫌で、ふたで隠しながら食べていた。
◎昔は、各家庭でお茶も作っていた。お茶は自給。
◎各家で、垣根と兼用で（茶垣）を持っていた。
◎もう今は、ほとんど残っていない。お茶摘みしてお茶作ってというまで、やる人がいない。
◎残っていても、ただの垣根の一部になっている。

3-7 農家の兼業の１つ～麻綯（な）え
◎農家の人は、みんなよく働いた。豊田では、麻綯えをやっていた歴史もある。
◎栃木市は下駄の産地で、豊田では、農家の副業で、その下駄の鼻緒に入れる芯を綯う。
◎その部分を業者が栃木市に持って行って、周りに鼻緒を付ける。
◎昔は現金収入が何にも農家はなかったから、貴重な副業だった。何でも自給自足して、そして、副業。
◎小薬などは一歩出ると栃木市。7 分で栃木市の駅に行ける。思川駅には、12,3 分かかる。八百屋さんでも魚屋さんでも何でも栃木市からきた。野菜を作ると食べきれないのは全部栃木市の八百屋さんが持って行った。

４：さまざまな地域活動

4-1 篠塚稲荷神社の祭りと住民の参画
◎新しくて良い住宅がどんどん増えてきている。初めは、大本地区が 60 戸、小薬が 60 戸、松沼が 60 戸。今、松沼だけで 300 戸ある。相当、自治会費が集められて活動も楽だろうと思われますが、とんでもない。新しく来た人のほとんどが、「どうして線路の北まで行って、神社の行事に参加しなくてはならないのか」ということで、うちは関係ないと、今は自治会にも入らない人が多いから自治会運営は大変。
◎自治会の総会がある時に時間をもらって、神社のいきさつを話して、「ここへ来た人は神社のこういう恩恵があるのだから、これを守って継承しましょう」と説明するのが、毎回大変。
◎できるだけ今は、経緯やしきたりなどを整理して、後輩に引き継ぎたいが、なかなか後輩もやりたがらない。自分たちの時は、今まで会社のことをメインでやっていたが、もう年齢的に地域のことを一生懸命やらないといけないと考えて、先輩からの頼みを、一つ返事で受けていた。今では違う。「嫌です」とはっきり断られるので、そこを無理に言うこともできない。文化財地区でも、文化財の予算はどんどん削られる。これで本当にいいのかと思いながら続けている。

4-2 お囃子
◎お囃子が盛んな地区（詳細は、グループインタビューの記録１）。子どものお囃子会というのを活動を始めたが、自分も一緒に教えてもらっている。子どもはすぐ覚えるが、白髪頭はなかなか覚えが悪くて、太鼓を叩いて間違えると、前にいる子供達が、振り返って睨んでくる（笑）。

4-3 子どもの居場所づくり
◎学校が統合する３、４年前。学童保育というのは、これは行政の決まりという、一つの学校に 1 カ所という何か暗黙のルールのようなものがあるようで、そこに通いきれない子どもがたくさんいると相談を受けた。育成会のお母さんたちが困っていた。その相談が自分に来たので、地元の公民館を活動場所として、そこで長期の春休み、夏休み、冬休み、その間を利用しまして、9 時から 5 時まで、保育士さんを仲間に引き込んで、子どもの居場所作りという活動を数年間やった。
◎それはその後、小学校区でコミュニティスクー

ルという公的な活動がスタートすることになって、そちらに移行して自然消滅した。まだ、その看板は地元の公民館に掲げてある。

5：未来に残したい豊田地区の小さな自慢

5-1 篠塚稲荷神社と初午祭

◎篠塚稲荷神社で、初午の時に、初午祭、収穫祭、年度末のお焚き上げをやっている。流鏑馬（やぶさめ）と太々神楽もやる。

◎周辺環境の変化：篠塚稲荷神社は、昔は神社と寺と一緒だった。それが明治時代に分離。御神体はお寺さんに飾ってあった関係で、向きは東から西を向いている。御神体を保存してくれたほうを向いている。昔はそこに、すごい杉林がたくさんあって、写真などを見ると、なかなか立派な祭りだったが、その周りで作っている米が日陰になってしまうということで、土地改良をした時に、この際だからと、杉林をなくしたしまった。

5-2 飾り馬と流鏑馬について

◎昔は農家で馬を農耕馬として使っていて、これ以上は使えないとなると、最後にあげてくれ、その馬に飾り物を地区内を歩き、そして流鏑馬をやる。そういう馬がいなくなったから、今は乗馬クラブから馬を借りる。流鏑馬では、だーっと駆けちゃうから、いつも 3 本矢を撃つところを 1 本撃つのがやっと。それを 3 回繰り返す。来た人は、3 回も見られるし、馬も速いので喜んでくれる。

5-3 太々神楽の継承

◎神楽を何とか継承していきたいが、非常に大変。神楽は出雲の神楽系統で全部で 15 座ある。15 座を通しでやると、3 日間かかる。他の地方の神楽も視察に行ったが、顔の造作や動かし方、体の動かし方などで、ものすごい迫力が出る。天狗は天狗の怖さを持って鬼のような雰囲気で。面をかぶっているから子どもも夢に見るくらいの迫力があると思うが、それを含めてどうやって継承されるかが問題だった。昔の場合は、篠塚稲荷神社だけではなく、卒島の神社や、第 2 公園のところや、地区外でもいろんなところで演じた。ところが最近は農家専従者がなかなかいないので、それをどうやって残すかというかが大変。

◎一時、途絶えてしまうところだったが、関係者みんなで協力して、97 歳になった継承者の方が、２年をかけて引き継いでくれて、現役の者たちが 13 座はできるようになった。24 歳くらいから 20 代後半の人たち 8 名が練習してくれている。若いから覚えが早いし、人前で練習して踊るのに恥ずかしいというのがないのがいい。面を被らないでも恥ずかしがらずに踊って練習してくれる。自分たちは、人に教わって踊るのに、夜、街灯をつけて自分で音楽を言いながら踊って練習していた。面をつけないと恥ずかしくてダメだった。

5-4 子どもと神社の祭り

◎子どものときは初午というと本当に楽しみで、親からわずかな金を 20 円、30 円もらって行って、そこで出店が出ているところで買って楽しんでいた。

◎ふだん遊ぶのも、その神社で遊んだ。子どもたちが集まって大国社というところが高台になっているので、自転車に乗って行って、狭いところを回って降りたりして、かくれんぼをしたり、よく遊んだ。ところが今は、神社は怖いというような状況。神社へ来て遊ぶ子どもはいない。

◎初午の祭りも子どもはあまり来なかったが、それを何とかして、多く人を集める方法はないかと試行錯誤した時期がある。公民館長の協力で、祭の当日、名所見所を回って流鏑馬の時間の 3 時ごろに稲荷様に靴用なハイキングを計画した。マックスになったときには 300 人を超えた。

◎ただ今度は、駐車場がないとう問題もあった。今年、一反歩の土地を買って駐車場を作った。事故が起きたら終わりだから、事故防止にも力を入

れている。
◎この初午祭をやるだけで 70 万かかる。予算や経費の面でも本当に大変。本当に神社にはいろいろないわれがあり、それを結構守ってやっている。ここで生まれたんたから、しようがないと思う。ここで終わらせたら、今まで継いできた人たちに申し訳ない。そういうことで、この神社と祭りや未来に残したいと思う。
◎やはり村を統一するのには、行事をやらなければ駄目だと思う。ここは、字対抗の運動会も、盆踊りもあったが、次第になくなって行った。昔、小薬の館長さんがいた頃は、自分で音頭を作って盆踊りをやったりした。そういうお祭り騒ぎのできる人が館長で来ると、いろいろなものができた。今度は花火大会も、今までは分散してやるようだ。思川のあっちの方を平らにしているけれど、それは花火大会と違うと思う。
◎今年も花火大会は分散。みんなが集まってやれるようなものが必要。

5-5 小薬で守っている薬師様・観音様・十九夜様
◎小薬のだいたい 155 軒で、薬師様と観音様と十九夜様というのを小薬全体で守っている。薬師様は寅年の御開帳。12 年に一度。観音様は、正念寺というお寺の中の観音様。それは午年の御開帳。12 年に一度。十九夜様というのは女の人たちがお産の神様として頼っている。昔はね。お産が軽く済むようにとろうそくに火をつけて、なるべく短くすると、陣痛が軽くなると言われた。
◎12 年に一度の時に、12 本、吊るし雛のようなものを作る。生地を買ってきて、みんなで縫って作っていたが、今の若い人たちの番になると「勤めに出ている人も多いし、とても作れない」という相談がきた。一緒に自治会長さんに交渉に行って、それなら今年は買いましょうということになった。値段もはるので各家庭から寄付も集めた。だんだんそういうふうに自分たちで手で縫っていたのが、買って飾るようになってしまうのは、仕方がないことかと思うが、何とか続いて欲しい。

5-6 遠くの山々の眺望
◎散歩であちこち歩いているが、西高へ行く道のちょっと高いところは、北には男体山、南は富士山、筑波山。これがきれいに見えて、ちょっと感動する。その風景は残したい。あの周りには高い建物は作らせないで欲しい。
◎例えば筑波山。筑波山の三角形がきれいに見えるし、遠くに富士山がすそ野まで見えるような感じ。日光連山もきれいに見える。あんなにきれいに見渡せるところは他にはない。その眺望の妨げになるような建物の規制を考慮に入れて欲しい。

6：解消したい困りごと

6-1 獣害のこと
◎最近、イノシシがものすごく出てきている。小宅でも、人家に近いところに、猪が棲んでいる。
◎竹やぶに棲んでいる。対策として、竹を切るところが決められて切るようになりましたが、その対策に全ての地区が賛成しているわけではない。
◎地権者がたくさんいたり、大木があったりで、なかなかまとまらない場所もある。
◎スズメバチやマムシもいる。マムシを捕まえた人もいる。イノシシが持ってくるヤマダニの被害もある。
◎ここらへんではヤマダニと言っているが、マダニ。んだけど。噛みついたら離れないので、それを取ろうとすると首からもげる。毒が入っているから医者も必要。
◎マムシは多くなった。電話がかかってきて「珍しい蛇が家の外によく出て、夜になると、外のセンサー式の明かりが、しょっちゅう灯ってしまう。見に来て欲しい」と。見に行って、その蛇を取ったからマムシだった。

6-2 高齢者にとっての思川駅の不具合
◎思川駅には、エレベーターをつけてもらいたい。
◎思川駅は乗り降りが多いから駐車場は新しくできたけど、階段しかない。年寄りでや足の悪い人は少なくないから、困る人も多い。

7：田園環境都市おやまのまちづくりについて

7-1 時代的な厳しさ、若い人と継承の問題
◎これから少子高齢化で若い人はだんだん減っていく。そういう中で、若い人の出番というか、若い人がこういう地域活動に出ていくという風潮が、今までの私たちの時代よりは減りますます参加しづらい環境になっていくのではないか。
◎若い人は手作りする時間がないという「吊るし雛」の話もあったが、今までは、高度経済成長期で、みんな結構お金も時間もあったが、これからは違う時代になるので、少しやり方を変える必要がある。お金もないし、時間もない。そういう中で、若い人材をどういうふうに生かしていくか。地域にどのように生かしていくか。そこを大切に考えていかないと、地域は衰退の一途を辿るのではないか。
◎自分たちが若い時にやっていた仕事と、今の若い人たちの仕事は、かなり違うと思う。肉体的にも精神的にも、頭も使うし、仕事の内容が違う。そういうところも理解して、若い人にどういうふうに関わってもらって協力してもらうかを考えて、継承のことも考えていくのが良いと思う。
◎公民館は駐車場が小さい。これでは人が集まらない。もっと人が一堂に集まれる場所に公民館を作り、そこで行事をすると良いという意見もある。いわゆる祭りとかそういうのではなくて、今度はキャンプファイヤーとか、若い人は集まりたくなるようなものに、方向を変えていかなければ。
◎学校の校庭も使えると良い。廃校になった所。

7-2 地域コミュニティと行事の継承
◎集落ごとに昔からやっている年間の行事がいまだに残っているところは多い。それらも含めて、伝統や行事を継承していくには、やはり年代によって考え方のギャップがあるから過去と同じような形で継続しようというところに無理があるのではないか。
◎例えば、お別火。もともとは集落の中で全員が裕福なわけではないので、誰もが、存分に夕食を食べる機会を作って、親睦もはかろう、と。米や味噌などを持ち寄って、1 箇所に集まって、共同で煮炊きして食べる。それをいろいろな地域ごとの年間の収穫祭やらにかこつけて年に 4、5 回やってきた。
◎そのお別火を、集落の中でも、もうやめようという声が増えているが、今のところは続けている。これから先、そういったものもどんどんなくなっていくかもしれないが、なぜそれをやっているという、その根本のところを考えると、「みんなが顔を合わせる、年に何回か一堂に会して飲み食いする、お話をする」というのが目的。その目的であれば、その形にこだわらなくてもいいのではないか。要するに地域ごとに気軽に集まれる場所、それが 100 世帯の地区 1 か所に全部集まればいいが、それが難しい感染症の状況がこれからも続くと思うので、それを細分化した数軒のたまり場のみたいな形で、隣近所の付き合いを場を残していくことを考えられたら良いと思う。
◎そういう親睦の場に、若い世代にきてもらうことが難しい。例えば、黒本の親睦会では、当初は 40～50 人いたが、今は 20 人強。若い人が入らないというのが悩み。
◎その若い人というのは、メンバーの子どもたちが多い。親父が行っていると息子はなかなか入りづらいので、息子たちの世代、別な世代のグループを作るような動きも必要だと思う。それがひいては後継者、地域の後継者という形になれば良い。そういう人とのつながり、地域の中、豊田地区の

中、自然体ということで広がっていけば良い。
◎お別火については、神様にお供え、奉納するという大切な意味もある。苦しいときの神頼みと言って、神様にお願いごとをする。仏様というのには、負担がかからないよういう、こういうことがあったよ、ああいうことがあったよ、いいことばかり話をして、それで、お年寄りが墓へ入っても、その亡くなった人が安心してそれを聞いていられる、ということらしい。

3｜子育て世代の方々

対象者：40 代の男性 4 名と女性 3 名。生まれも育ちもずっと豊田地区の方と、結婚を機に豊田地区に来た方。ＰＴＡやわがまち元気発掘実行委員会などに参加。
2022 年 5 月 30 日 18:30-20:30 豊田公民館

１：豊田地区との関わりや生活圏について

◎他地区から結婚を機に豊田に来て 13 年目。他所から来ても PTA 活動に参加することでネットワークができる。
◎休みのときなど、日常的な買い物は豊田地区の中で済ませて、家族と一緒に出かけるのは、やはり小山市内より、家から近い栃木市へ。
◎生まれも育ちも豊田地区。最近まで働いていた職場も豊田。生活圏としては、うちは、豊田中に行くより小山中に行く方が近い位置なので、小山の市街地に行くことが多い。
◎結婚を機に豊田に来て、夫の両親と同居。豊田に来る前には小山市内の都市部に 8 年間住んでいて、都市部と郊外と両方での子育てを体験している。
◎ 7 年前に、夫の転勤を機に、夫の実家がある豊田地区に来た。職場が栃木市で実家が県外なので、その 3 か所を行き来している。
◎県外の出身で、都内で働いていた時に豊田出身の妻と結婚。妻の実家に遊びに来るたびに、田んぼの中ののんびりした環境に惹かれて、子供が小学校に入るまでに移り住もうと決めて移住。職場が市外なので、地域にはいまだに自分が知らないところも多い。
◎大学で外に出た 4 年間以外は、ずっと豊田。ベビーブーム世代なので同級生も多くて、けっこう地元に残っている。
◎大学で都内に 4 年間住んだが、そのまま東京に住もうとは一度も思わなかった。都会の、すぐそ

こに隣の家があるという環境は、とても窮屈な感じがしたし、水も美味しくなかったので、卒業したら戻ろうと早い時期から思っていた。

２：昔と今、子どもの遊びや活動範囲

２-1 わんぱく相撲

◎小学校のとき、わんぱく相撲があった。豊田地区は、他の地区より始めたのが早かった。豊田南小かな。

◎桑地区の羽川は羽川小学校に土俵を作ったのが４年生のとき。小さいながら豊田地区は大きい子が多いイメージがあった。

◎卒島でもやっていて、確か神社に土俵を作って、勝つとお金（100 円くらいのお駄賃）をもらえる奉納相撲のようなことをやっていた。

◎卒島は、うちの近くの三ノ宮神社の秋祭りの時に小学生の相撲大会をやっていた。

◎小宅でも神社で相撲をとっていた。前は小宅地区だけで相撲大会ができたが、子供が少なくなったので、北小学校の子どもたちに参加してもらっていた。

◎川沿いに六地蔵があって、そこでも土俵があって相撲をとらせていた。

２-2 子どもの遊び場、今と昔

◎祖父母世代は、子どもの頃、神社が遊び場だったという話が、グループインタビューであった。

◎自分が子どもの頃（30 年ほど前）、神社ではなく、公園か思川駅周辺で遊んだ。豊田公民館脇の公園は、いつも子どものころは遊び場だった。今のようにゲームというよりは外で野球をやったりサッカーやったり。

◎今は、ほとんど、誰かの家に集まって、ゲーム。

◎帰ってきたらすぐゲーム。

◎子どもの数が少ない。北小に入ったら同級生に女子は４人。小薬２人、小宅に２人。低学年の頃は、自転車で行き来ができないし親も仕事があると送迎できない。友達のうちに遊びに行くとしても同じ集落の中だけ。あまり外に出かけられない。

◎子どもの数が多い集落だと、みんなで集まって遊びに行ったりしている。

◎毎日、親がいない間に４人ぐらいゲーム機を持って集まっている。

２-3 自然の中での遊び

◎うちの子どもは、ゲームが好きではなかったというのもあって、外遊びが多かった。小２くらいまでは、裏に竹山があるので竹を切ってきて、竹で何かいろいろ作って遊んでいた。小３になったら、近所に友達がいないので、何かスポーツをしようと、友達が入ってバスケットボールチーム（ミニバスチーム「豊田フレンズ」）に入りました。過去には、県でベスト３とか４。全国で優勝したこともあって、けっこう盛り上がっている。

◎うちの子どもも竹やぶが大好きで実家の竹やぶで１日遊ぶ。

◎竹の棒を自分で加工して竹鉄砲を作ったり

◎棹を作って紐をつけて、近くの川でザリガニを釣ったり。

◎お金がかからない遊びを、工夫して楽しむ。

◎息子は、今年の夏、近くで採ってきたカブトムシを繁殖させて、部屋中にカブトムシの幼虫がいた。繁殖のさせ方をネットでいろいろ調べて。ショップが開けそうなぐらい一面にカブトムシの幼虫がいた。家族で散歩する時に、あそこの木はカブトムシがいそうだとか、目星をつけて、朝昼晩、通って。その幼虫を高校で理系コースに進学している長女が、昆虫の研究として理科の実験、自由研究に利用していた。

◎豊田ならではの体験が子供たちもできるが、今はイノシシの被害もあり、棲みかになる場所を減らすために雑木林を伐採するところも増えて、虫が採れる環境は減っているのではないか。

◎豊田の環境を、うちの子どもはゲームばかりなのでどう思っているかは分からないが、親として

は田んぼの中のぽつんとした一軒家の環境がとても過ごしやすい。田植え前は、田んぼに水を張って、周りの家の明かりがそこに映って・・・、都会よりは遥かにいいと思う。

２-4 用排水の堀さらいと生き物

◎小宅地区の用水路は数年前にコンクリートのU 字溝が入って生態系にも変化がありザリガニも取れなくなった。
◎土が掘ってあるだけの溝の時は、いろいろな生き物がいたので、子どもたち遊んだりしていた。
◎土側溝では、堀さらいが面倒くさい。U 字溝できれいにして貰えば、やる負担は少なくなるが、そうなるとなったで環境も変わってくる。
◎堀さらいは年に数回あって農家の方は 1 回でも出ないと出不足金。農家ではないと 3 ヶ月に 1 回出れば良い。出ないと出不足金の 4000 円をはらう。
◎結構高い。
◎でも、作業の後、みた食堂で昼間にビールを飲むという楽しみもある。
◎うちは、パンとジュースが出る。

２-5 都市部の子どもとの違い

◎小山地区の知り合いの子供たちは、小学校 4、5 年から電車で友達と東京へ遊びに行くと聞いている。うちは、信号もないところで育っているので、信号のある交差点も渡れるかどうかだから、絶対無理だと思う。
◎うちの弟世代の同級生が、小学校の時に 1 万円持って小山市街地に行って、いろいろなもの買って帰り、親にこっぴどく怒られたと聞いている。
◎小山で 1 万円、何を・・・。
◎キンケシとかいろいろ買ってきていた。
◎自分たちが小さい頃は、子供だけで小山市内に行くというのが冒険だった。今はハーベストへ、電車とバスで行くか、自転車で行く子もいる。
◎中学生は、校則で、自分たちで行ってはいけないことになっていて、みんな素直にいうことを聞く子たちで、だから親と一緒に行く。
◎なので高校に行って、それから新しい世界へ。
◎そしてなかなか帰ってこなくなっちゃう。
◎自転車で行ける外は、未知の世界だった。
◎自分たちの頃は、けっこう悪いことも。小山ゆうえんちにプールがあって、野球部の練習が終わったら誰かが小山遊園地のプール無料券を配ってみんなで泳ぎに行った。思川に釣りに行って、思川の釣りは鑑札が必要で無料ではないが、その見回りの人が来ると「帰ります」と言ってかわしたり。六地蔵のところは、砂利を取って水深が深いから、そこで死にかけた自慢話が始まったりで、悪いことだらけ。

３：地域での活動について

◎PTA、消防団、集落のクラブ、豊田わがまち元気発掘委員会などで活動している。
◎仕事の関係で小山市内でも、地域によっていろいろな結束力、やり方などいろいろあるということがわかってきた。豊田地区というのは本当に皆さん協力的だと感じている。

3-1 消防団

◎地元で消防団に入っている。朝は 3 時半起きで、平均 50 歳のいい大人が朝 5 時から運動会みたいなことをしている。コロナが始まった時に入ったので、2 年間は何の活動もなく、今年からやっと活動できるようになって小山市の大会に出るということで、一生懸命運動会のようなことをしている。だから、消防団は負担に感じる人もいると思うが、地域とのつながりという意味では、仕事以外に頑張れるものがあるというのは、やはりいいことではないかなと思う。

3-2 学校との関わり

◎コロナで中止になっているが、放課後子ども教

室「豊北学びの居場所」という活動がある。
◎放課後子ども教室が始まる前は、小野塚イツ子基金で補助金を頂きながら、黒本公民館で夏休みとか冬休みとか春休み、長期休業のときだけお子さんをお預かりして、朝から夕方までお弁当持参で、子どもたちと一緒に過ごす。公民館では、水曜日にいきいきふれあいセンターを行っていて、そこのおじいちゃん、おばあちゃんとの交流などもできていた。
◎豊田北小学校の学校運営協議会の事業で豊田北小の盆踊り大会を実施。その経緯で声がかかり令和元年度、豊田地区での盆踊り大会の開催に関わった。2 年度、3 年度はコロナで中止。
◎活動の一環で、新しく開設された一貫校に、小学校、中学校 1 本ずつ運動会で使うテントを一張ずつ、小学校には大型絵本・読み聞かせ絵本、広報を兼ねた掲示幕などを寄贈。

3-3 人のつながり
◎間々田地区の「じゃがまいた」というお祭りがあるが、それで地元の絆が強くて連携が良いのではないかと思う。小学校からの上下関係があるのか、地域によって違うのか。地区によっては、何にしても若い人がやるのも苦になるかもしれないが、ある程度の年齢の人だけでやっていると体力的なところで大変なところが出てくると思う。層が厚い方が良い。
◎つながりで言うと、われわれの代と言うと同級生が結構残っている気がするが・・・。
◎女性の同級生は結婚しないでバリバリ働くタイプも多いから、そうでもないかもしれない。そういう中で、商店街と呼べる思川商店街がシャッター街になっていく、それに付随してまた空き家とかも出てきているのが、心配だし残念。
◎他の地区から豊田に入ってきたが、子どもの同級生のお母さんたちは、ずっと地元のどうしのつながりがある。同級生とか、先輩後輩とか。小学校や中学校の先生とかも、お母さんたちを教えていた先生たちがまた何年かたって、その子供を教えているということもあって、それで豊田の昔の話とかを、面白いと思いながら聞かせてもらっている。いろいろ教えてもらっている。
◎PTA 会長をやっているときに意識したのは、きっかけを作ること。性格がおとなしいお父さんやお母さん、それによそから来た人って、普段、話したりする人が少ない。話し相手が家族だけ、自分もそうだった。盆踊り大会をする時に、屋台の出店を増やして、関わる人を増やして、できるだけ参加してもらう。そうすると、これの準備をしようとか、少しでも話すきっかけを与えられる。なかなか自分から声をかけられない人もいるので、きっかけづくりは大切。
◎出店を増やすことで逆に負担にもなって大変な面もあるが、アンケートで「話せて楽しくわいわいできた」という声もあった。

3-4 お囃子・豊田地区盆踊り大会
◎今はコロナで全く活動ができていないが、地域のお年寄りの方で太鼓ができたり鼓ができたり笛ができたりしている方と、子どもたち、小学生との交流が持てたというのはよかった。そこに親世代も入ってくるので、3 世代の交流ができている。
◎最初は地元のお囃子を夏祭りに演奏し、あとは日光和楽音頭。そして、教わりながら豊田音頭も。
◎島田と、黒本で、もともとやっていた。島田南の子どもたちは南小学校に行っているので、南小と北小の子どもの交流も、島田・黒本のお祭りでやっていた。
◎コロナ前までは、お囃子をきっかけに全部のところにお囃子が回れるように、島田南、伊保沼、黒本の夏祭りの日程を合わせてもらって子どもたちのお囃子で盛り上げるようにした。
◎お囃子は、島田、黒本の他に、卒島、小薬にある。小薬は二つある。
◎お囃子どうしのつながりはなかった。小学校で

盆踊り大会をやった時に小薬の二つのお囃子に来てもらって演奏して、つながりが少しでき始めたところに、豊田地区全体の盆踊り大会を実施できて（令和元年度)、豊田地区全体のお囃子がつながった。
◎盆踊り大会では、地元の電気屋さんも配線や音響・放送設備で協力してくれたり、他にも自らも、いろんな協力をしてくれる人がいて、そして、お囃子にも来てもらえて全部がそろって演奏できた。もっと演奏したいから長く続けてということにもなって、みんな楽しんではくれていたと思う。
◎なかなか披露する場がないからよかった。
◎地元の夏祭りの他に、栃木市のお祭りや小山市のお祭りで演奏するぐらいしかない中で豊田全体での盆踊りもできたのでよかった。という矢先にコロナでできなくなったが。
◎立ち上げた以上はちゃんと残さなければいけないので、コロナが落ち着いたら、また。それまでは違う事業ができればと、相談もしている。

3-5 新編豊田音頭
◎新編豊田音頭[*1]は、先日の小中一貫の豊田小学校・豊田中学校の合同の運動会「スポーツフェスタ」で全校生徒児童で踊りました。
◎学校で先生たちが教えてくれて、中学生も楽しそうに踊っていた。
◎統合されるまでは、北小は、新編豊田音頭を踊っていて、南小は豊南音頭を踊っていた。
◎北小は、元々は日光和楽やっていて、その後に小山音頭ができて踊っていて、新編豊田音頭ができたので、新編に変わった。
◎南小は、もとの豊田音頭を踊っていて、自分たちが小学生だった頃、40 年近く前に、南小の PTA の皆さんが豊南音頭を作ったと聞いた。
◎いろんな歴史がある。

註 1：新編豊田音頭について、下野新聞（2013 年：平成 25 年 6 月 5 日）の記事から一部を転載する

豊田音頭リニューアル 歌詞 62 年ぶり、小山の「発掘会」DVD 化、地元で踊り披露：市北西武の豊田地区の活性化に取り組む「とよだげんき発掘会」は、地域に伝わる豊田音頭の歌詞を 62 年ぶりにリニューアルし「新編豊田音頭」として DVD 化した。1 日に開かれた豊田北小の運動会で、歌などがお披露目された。（中略）豊田音頭は終戦後に歌詞が付けられたが、近年は地域で披露すされる機会も少なくなっていたという。次代を担う子どもたちに誇れる地域文化を伝えようと、同会の特別作業部会が地区内で歌詞を募集。「伏して清らか 思いの流れ」「五穀豊穣 初午まつり」など地区内の風景や行事、産物がわかりやすい言葉で盛り込まれている。（後略）

◎お囃子は、昔は、どこの集落でもやっていた。
◎子どものころはお囃子と神輿の練り歩きについていくと、いろいろなお菓子やスイカをもらえるから楽しくてついて回っていた。
◎御神輿を担いで練り歩くのも、子ども神輿でも、結局は親が最後は担いで負担になるし、班長さんの負担も増えるからと、消極的な人も増えている。
◎若い世代の保護者からはコスパが悪いと言われたことも。そう言われてしまうと何も言えない。なかなか難しい。
◎桶田は今もやっている。コロナでできないが。夏祭りに、子どもみんなで子ども神輿で地区全体を回る。最近は軽トラに神輿を乗せて、要所要所は、おろして担いで歩く。桶田の公民館からファミリーマートまで歩いて行って、またずっと川沿いを歩いてきて帰ってくる。夏祭りも秋祭りもコロナ前はけっこう派手にやっていた。3 世代の交流で、年番というお祭りの当番のおばあちゃんたちは、うどんを作って、おじいちゃんたちがお餅をついて、お母さん世代とみんなでお手伝いして、子どもたちが食べる。おじいちゃんおばあちゃん世代が、地元の子どものことを大切にしてくれるので、夏休みのラジオ体操も 3 世代のラジオ体操ということで、みんなでやっている。
◎桶田は、小宅の一集落で、小宅には、上・中・下がある。桶田とは別に、小宅の上・中・下は一

緒に祭りをする。お神輿を出して下から上までぐるっとお神輿を子どもたちが担いで、山車を出して・・・。

４：豊田地区で守り、未来に繋ぎたいもの

4-1 祭り・お囃子

◎篠塚稲荷の初午祭は、残したい。自分もやがて年番で携わるかもしれないが、しっかりやって繋いでいきたい。市外からも電車で来て駅から散歩がてら歩いて、わざわざ来てくれる人も多い。

◎お囃子の練習も、コロナの影響でできていないのですが、やはりお囃子は後を継いでいきたい。

◎町内のお祭りを続けるところも本当に減ってきているけど、豊田のわがまちの盆踊りは、コロナが収まったらまた始めて、ずっと続けていきたい。出身地の田舎も、夏に八月踊りという大きなお祭りをずっとやっているが、田舎から出て行った若者とかも、そのお盆の時期に合わせて田舎に帰ってくる。誰かと帰る帰らないとか約束しなくても、祭りで集まれる。

地域全体で、そういうメインイベントは必要。中学生でも、お祭りで集まって何かいたずらしたというような、学生時代の思い出ができれば。未来に残していければ良いと思う。

4-2 人と人の繋がり

◎人と人の繋がりがしっかりしていて、いざという時に協力してくれる人が多い。そういう豊田の良さも、ずっと残していきたい。具体的には、子どもの娘の成人式のときに、コロナの影響で、開催日が下の学年の成人式を行う時に重なり、成人式当日に「未来の自分へ」書いた手紙が配れなかった。後日、その連絡がきて子どもたちに連絡がいったその日のうちに、全員、本人か家族に無事に届けられるということがあった。クラス替えがないから、どの子も知っているし、どの子も話したことがある。関わりがない子でも覚えている。今。誰がどこにいるとか、大学とかで他県に行っている同級生も、友人がその子の親とつながっていて渡せる。子ども同士、親同士だけではなく、子どもたちと他所の親たちでも、気軽に話せるし関係があるから。本当にその日のうちにそれが解決できたので、豊田地区ってすごいなと感じた。

◎他の地区から来て８年。役員や地域の活動に関わる中で、先輩たちに豊田地区のことをいろいろ教えてもらって、もともと地元の人に聞かれるくらい詳しくなれた。それはやはり豊田の地域性ではないか。人が本当に温かくて、お年寄りが地域の子どもを大切にしてくれて、そこでお母さん世代の交流もできる。そういった無形のものはこれからも残していきたい、未来につなぎたい。

◎私もここに住んで７年、８年だが、子どもたちがみんな穏やかだなと見ていて思う。大きい争いもない。引っ越してきてすぐ小学校入学だった子供も、先生方はもちろん、まわりの子どもたちのほうが困っているときに手を差し伸べてくれたりして、助かっていた。そういう気質は、やはり地域性なのかと思う。ずっと引き継いでいきたい。

4-3 将来の選択肢

◎理系の高校生の子どもと進路のことを話すことがあるが、これからは、理系関連の仕事に就いてとなると、都市部に出て行かなくても農村地帯に住んでいても仕事ができる環境になると思う。豊田を出るのではなく、残ってできることに、どんな可能性があるか、そんな話もしていた。

◎今までは、田舎に住むとなると職業が限られてしまっていたが、子どもたちが大人になる頃は変わる可能性もある。

５：解消したい困りごと

5-1 上下水道

◎自分が住んでいる集落には、市の水道が通ってないので、水道組合というのを独自で作っている。

水道管が張り巡らされていて、そのメーターの検針も集金も、班員で順番にやっている。勝手に人の家へ入っていってメーター見ても、それが普通で、それが当たり前になっている。そういうところがいいことなのか悪いことなのかは分からないが、そういうことができているのだが・・。
◎やはり同じような共同ポンプのところに、これから家を建てる人は、余計にお金がかかる。水道をやはり通してもらえれば良いのだが。
◎農家で水をたくさん使うというところや、ぽつんと一軒家の家は、独自に井戸を掘っている。
◎台風のときに都市部は水が止まった。豊田は、水はいつも通りに使えた。共同ポンプのいいところはそういうところで、災害があったときにすぐ対応できたり、地域ごとで対応ができるところだと思う。
◎共同ポンプが壊れたときに、地域の中でも 1 軒だけ井戸を持っている家があって、みんなでもらいに行った。
◎小学校は最初は井戸だった。夏は、市の水道からひくプールの水は温かいが、豊田の井戸水は冷たいので、プールに入れた。
◎逆に水が冷たすぎてプールに入れないことも。

5-2 狭い道路
◎川沿いの集落に住んでいるが、両毛線の線路があって大きい通りからも離れていて、道も狭く消防車や緊急車両が入ってこれない、陸の孤島のようだ。入ってくるにしても、かなり遠回りをすることになる。将来、もし災害など何かあったときに大変なので、市に要請しているが。
◎水害というほどの被害はなかったが、大雨の時に田んぼが水でいっぱいになった。広い田んぼが水を蓄えてくれたからよかった。

6：田園環境都市おやまのまちづくりについて

◎豊田で生まれ育って、同級生とも、それぞれ進学や就職でバラバラになって、地元にいても疎遠になることもあるが、社会人になって、子供を通して、PTA を通して地域に関わるようになると、地元に残っている同級生とまた繋がったり、声をかけると手伝ってくれたり、それはとても心強い。
◎今の子どもたちが地元を今どう思っているのか分からないが、一回、東京へ行きたいとか都会に出たいと思うのは気持ちは分かるので良いと思うが、また豊田に戻りたいなと思ってくれる子たちが多いと良い。そういう思いになるように、お祭りやったねとか、小薬の神社で遊んだねとか、相撲をとったねとか、そんな思い出話ができるような地域にしていきたい。
◎子育て中の親は、子どもを小規模校にいかせたい人もいれば、子どもが多い学校に行かせたい人もいる。子供が多い学校がいいと思う人は、友達を作りやすいことや、競わせたいという考えかもしれない。いろんな考えがあると思うが、これからの子育て世代が、やりやすいように、もっとよくしてあげられたらいいのかなとは思う。
◎小山地区に住んでいたことがあるので実感しているが、小山地区の方たちは、豊田のことをけっこう知らなかったりする。豊田ってどこなの？という人も多い。地産地消の意味でも、豊田でつくっている農産物を小山地区の方、都市部の方にも知ってもらったり何か PR して、田園のほうのよさを知っていただけると良い。それが結局、若い世代の農家を継いでいる方たちの応援という意味にもなる。すごく頑張っている方もいるので。
◎菜種油とか、他にも色々作られている。PR になると良い。
◎そういうものを通じて豊田地区を知ってもらって、農家を経営するのはこれからすごく大変だと思うが、PR で応援できればいい。継承していくというは、農家は今すごく大変なので。

3-2 アンケート調査結果（概要版）

全７問を設定して実施したアンケートについて、主要な設問の結果を概要版として掲載する。質問票と、単純集計の結果及び属性ごとの相関をみる集計の詳細版は別添資料（アンケート集計結果報告書）「アンケート調査結果 報告書」に掲載する

回答率：66.7%
●調査票の回答：1151 名：66.7%（全 1726 世帯）
●インターネット回答：17 名
●合計 1168 名

１：回答者の属性について

1-1 集計結果：設問【１】
-1 性別

男性　62%	女性 33%

男性 724 名、女性 389 名、その他 45 名　無回答 10 名

-2 年代　（ ）内はインターネット回答者

70 代以上	60 代	50 代	40 代	他
38%	30%	17%	8%	

70 代以上 447 名・60 代 342 名（６）・50 代 199 名（５）
40 代 96 名（５）・30 代 48 名（１）・20 代以下 10 名

-3 職業（兼業農家の方は複数回答可）

無職*	455	38%	農業（兼）	76	6%
会社員	243	20%	公務員	31	3%
パート*	133	11%	団体職員	12	1%
農業（専）	111	9%	学生	0	0%
自営	79	7%			

◎その他 19 名、無記入 37 名
＊無職：退職者や主婦・主夫の方などを含む
＊調査票ではパート：パート/アルバイトと表記

-4 お住まいの大字＞別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載
-5 地域活動の経験＞別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

-6 豊田地区との関わり

回答が多い順

選択肢	名	%
豊田地区で生まれて一度も地区外で暮さず	406	35
県内の他市町で生まれ育ち、豊田へ移り住む	179	15
豊田地区で生まれ、就職で外へ、その後戻った	157	14
栃木県外で生まれ育ち、豊田へ移り住む	118	10
小山市の他地区で生まれ育ち、豊田へ移り住む	107	9
豊田地区で生まれ、進学で外へ、その後戻った	84	7
豊田で生まれ、進学・就職で外へ、その後戻った	44	4

・無記入 22 名、その他 1 名

豊田地区に他所から移り住んで来た人や U ターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。最多が「結婚のため」、次に「自然の豊さや広々とした環境に魅力を感じて」が多く、「自然が豊かで、子どもを育てるのに良い環境のため」と言う子育て世代の声がある。続いて「親の面倒をみるため」「実家の敷地に家を建てることになった」など家庭の事情が挙げられている。

1-2 回答者の属性について
以上（-5 地域活動の経験を含む）の結果より、主たる回答者層は、「豊田地区で生まれて住み続けておられる 60 歳以上の方」で「仕事を退職されて、自治会など地域活動の経験がある方々」であると言える。男女比は、およそ 2:1 である。
集計結果には、この主たる層の回答が反映してくるが、必要に応じて、年代別の回答結果などの差などもクロス集計を用いて確認していく。

２：生活圏について

2-1 集計結果：設問【２】

- 1 仕事や学校へ通っている地域

複数ある場合はメインの地域を１つ

- 2 日常的な買い物や用事で出かける地域

複数ある場合はメインの地域を１つ

- 3 休みの日によく出かける地域

上位を２つ選択。集計は合算

通勤通学で		日常的に		休みの日に	
豊田	417	小山駅西	498	小山駅西	542
小山駅西	133	栃木市	259	栃木市	413
栃木市	110	豊田地区	179	小山駅東	323
小山駅東	87	小山駅東	87	県内他市町	220
県内他市町	75	桑	47	豊田	198
県外	58	県内他市町	26	県外	97
宇都宮市	25	宇都宮	8	宇都宮市	95
桑	14	県外	4	桑	53
穂積・中	10	絹	2	間々田	37
間々田	10	寒川・生井	2	穂積・中	13
大谷	6	大谷	2	大谷	8
絹	5	間々田	1	絹	5
寒川・生井	1	穂積・中	0	寒川・生井	3

-3 休みの日にその地域へ出かける目的

回答が多い順・( ) は回答者数

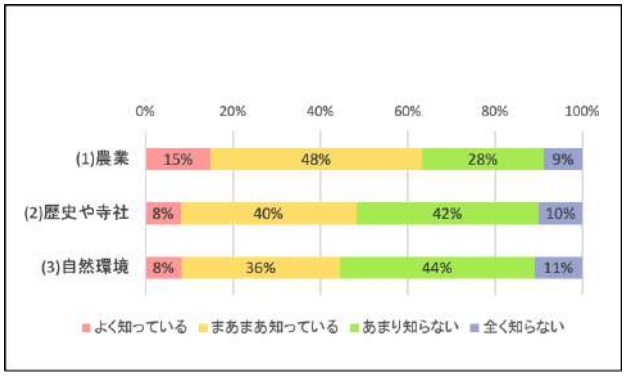
①特別な買い物（706）
②食事や宴会（280）
③病院（177）
④友人や親戚に会いに行く（139）
⑤自然の中でリフレッシュ（105）
⑥スポーツ/スポーツ観戦（72）
⑦まち歩き（57）
⑧アウトドアレジャー（43）
⑨セミナーや講演会（11）
＊その他（214）

その他の回答者で、挙げられた具体的なコメントは、サークル活動・趣味の活動・子どもの送迎・寺社への参拝・ボランティア・美術鑑賞・墓参り・銭湯・温泉施設・図書館などであった。

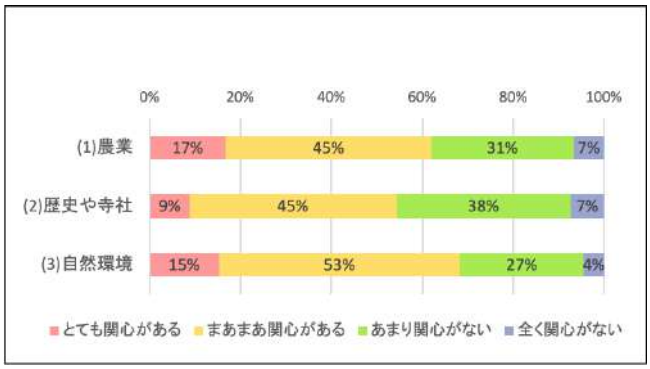
●風景社コメント：日常的な買い物や用事に出かけるエリアを尋ねた(-2)の結果では、豊田地区内という回答は３番目の数にとどまった。日々の買い物なども豊田地区内で完結していない状況は、後述する問【４】で尋ねた「地域の、解消したい困りごと」において「買い物の不便さ」をあげた回答が、14 項目の選択肢の中で４番目に多いという結果とリンクする。また、日常的な買い物や用事についても、休みの日の出掛け先でも、小山駅西と栃木市を挙げた回答が上位２つを占めているが、グループインタビューでも、豊田地区東部は小山地区の駅西口エリア、豊田地区西部は、以前より栃木市との結びつきが強いことが語られている。

3：豊田地区の地域資源への認知度・関心度

A 認知度を把握する質問は以下の通り。
⑴豊田地区での農業について、どんなものがどんな規模や形態で生産されているか知っていますか？
⑵豊田のなりたちの歴史やお住まいの自治会や近隣に残る神社や寺の歴史、由緒、祭りなどを・・？
⑶豊田地区に残る湧水や河川、樹木の場所などについて知っていますか？



B 関心度を把握する質問は以下の通り。
⑴豊田地区の農業に関心がありますか？
⑵豊田地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
⑶豊田地区に残る自然環境に関心がありますか？



農業については「よく知っている・まあまあ知っている」と回答した人の合計が 63%で、「とても/まあまあ関心がある」と回答した人も、ほぼ同じ 62%。だが、歴史や寺社と祭りなどについては、認知している人が 48%のところ、関心を持つ人が 54%と若干上回る。自然環境については、認知している人が 44%のところ、関心を持つ人が 68%と 2 割アップしている。

年代別の差異を見ると・・・

	全世代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～
農業・知っている	52%	23%	37%	49%	57%	58%
農業・関心がある	51%	35%	46%	47%	54%	56%
歴史や寺社・知っている	40%	8%	23%	30%	43%	51%
歴史や寺社・関心がある	45%	33%	41%	36%	45%	54%
自然環境・知っている	37%	10%	23%	31%	40%	45%
自然環境・関心がある	60%	50%	55%	49%	59%	61%

●風景社コメント：年代別の集計で特筆すべきは、30 代 40 代は、例えば「歴史や寺社、祭りなど」について、「よく/まあまあ知っている」は「8 %」と少ないが、「関心がない」わけではなく、むしろ、「関心がある」と答えた率が、「33%」と高くなっている。特に 30 代 40 代は地域の農業や歴史や寺社、自然環境に対して、認知度は低くでも関心度は高い傾向がある。地域資源の広報周知の工夫をすることにより地域活動への参画が高まる可能性もある。

４：地域の困りごと

4-1 集計結果：設問【４】

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える豊田地区の困りごとは、どんなことでしょう？」　＊グループインタビューでの成果をもとに設定した 14 の選択肢を用意し、その中から３つ選んで回答する

回答が多い順（数字は回答人数）

１せまい道路、未舗装の道路----------341
２農業の担い手・後継者不足----------306
３公共交通の不便さ----------299
４買い物の不便さ----------285
５地域活動の担い手・後継者不足----------249
６昔からの風習----------204
７地域の集まりや寄り合い----------188
８上水道・下水道----------176
９イノシシなどの獣害----------148
10 台風や大雨による水害----------143
11 祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足- 109
12 地域でのコミュニケーションの不足----108
13 選択肢が少ない働く場所----------84
14 選択肢が少ない教育環境----------70

その他-33　無記入-216

その他に記された内容
＞別添資料（アンケート集計結果報告書）参照

4-2 年代ごとの差異（回答数が少ない 20 代は除外）

上位５項目は下の表のような結果になる。

30 代：回答 48 名	**40 代**：回答 96 名	**50 代**：回答 199 名	**60 代**：回答 342 名	**70 代**～：回答 447 名
１せまい未舗装道路	１せまい未舗装道路	１せまい未舗装道路	１せまい未舗装道路	１農業後継者不足
２昔からの風習	２選択肢少・教育環境	２昔からの風習	２公共交通・不便	２買い物・不便
３台風大雨・水害	２地域の集まり寄り合い	２買い物・不便	３農業後継者不足	３公共交通・不便
４買い物・不便	３公共交通・不便	３公共交通・不便	４地域活動・人の不足	４地域活動・人の不足
５地域の集まり寄り合い	３買い物・不便	４地域の集まり寄り合い	５買い物の不便さ	５イノシシなど獣害

4-3 選択肢項目のジャンル

その他と無記入を除いた選択肢を、６つの領域に分けて全体に占める割合を出してみる。

生活環境に関すること 40.6%	せまい道路・未舗装の道路 公共交通の不便さ 買い物の不便さ 上下水道の問題
担い手不足に関すること 24.5%	農業、地域活動、祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足
地域コミュニティに関すること 18.5%	昔からの風習・地域の集まりや寄り合い・地域でのコミュニケーションの不足
教育・就労に関すること 5.7%	選択肢が少ない働く場所・選択肢が少ない教育環境
獣害 5.5%	イノシシなどの獣害
水害の不安 5.2%	台風や大雨による水害

●風景社コメント

狭い道路や未舗装の道路について、解決したい課題と考えているか否かは、集落により若干の差異が見られることを、大字ごとの集計ローデータで相関を見て確認した。困りごとの選択肢の中で１位として上がっていたのは（大本・渋井・荒川・立木・松沼）で、低い集落は５位（卒島）６位（今里）となっている。

また年代ごとの差異からは「昔からの風習」「地域の集まりや寄り合い」を 50 代以下は「困りごと」つまり「負担」と感じる傾向がみえる。このことについては４章にてコメントを加える。

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5 -1 集計結果：設問【5】

質問「あなたが「大切に守っていきたい」と考える豊田地区の小さな自慢は何でしょう？」

＊グループインタビューの成果をもとに設定した14の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答

回答が多い順（数字は回答人数）

1 水田が広がる環境、風景----------470
2 子どもたちが伸び伸び育つ自然環境------338
3 JR 思川駅や県道が通る利便性----------269
4 地域に残る歴史ある神社やお寺----------256
5 東西南北に山々が見える風景----------250
6 おおらかな気風----------208
7 思川堤防沿いの環境、風景----------166
8 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能------152
9 麦畑が広がる環境、風景----------135
9 消防団や自治会活動等、地域の助け合いの活動-135
10 多様な生き物がいる自然環境----------120
11 各地域に残る歴史ある建物や古木---------62
12 趣味やスポーツの地域のサークル活動----46
13 産業や生業としての農業----------40

その他-18　無記入-240

その他に記された内容/年代別の集計詳細

＞別添資料（アンケート集計結果報告書 P31～）参照

5-2 年代ごとの差異

上位5項目は下の表のような結果になる。

20代は回答数が少ないので除外している。

30代：回答48名	**40代**：回答96名	**50代**：回答199名	**60代**：回答342名	**70代**～：回答447名
1子ども・自然環境	1子ども・自然環境	1水田の環境、風景	1水田の環境、風景	1水田の環境、風景
2水田の環境、風景	2水田の環境、風景	2子ども・自然環境	2子ども・自然環境	2歴史ある寺社
3駅や県道の利便性	3おおらかな気風	3おおらかな気風	3東西南北に山々が	3駅や県道の利便性
4おおらかな気風	4駅や県道の利便性	4駅や県道の利便性	4駅や県道の利便性	4東西南北に山々が
5麦畑の環境、風景	5東西南北に山々が	5東西南北に山々が	5歴史ある寺社	5子ども・自然環境

5-3 選択肢項目のジャンル

その他と無記入を除いた選択肢を、4つの領域に分けて全体に占める割合を出してみる。

自然環境・農業風景に関すること 57.4%	水田が広がる環境、風景・子どもたちがのびのび育つ自然環境・東西南北に山々が見える風景・思川堤防沿いの環境、風景・麦畑が広がる環境、風景・多様な生き物がいる自然環境・産業や生業としての農業
歴史や風習、祭りに関すること 17.8%	地域に残る歴史ある神社やお寺・各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・各地域に残る歴史ある建物や古木-
地域コミュニティに関すること 14.7%	おおらかな気風・消防団や自治会活動等、地域の助け合い・趣味やスポーツの地域のサークル活動
交通の利便性 10.1%	JR 思川駅や、県道が通る利便性

●風景社コメント

上表のように分類した場合、自然・農業・風景に関する項目で5割を超える結果になるのは、グループインタビューで語られたことを基にした選択肢にその項目が多いということもあるが、それを差し引いても、自然環境は豊田地区にとっての大切な宝だとわかる。一方そのような環境や風景をもたらす基盤といえる「産業や生業としての農業」を守りたいものとして挙げた人は40名にとどまる。生井地区でも同様の傾向があった。

年代別では50代以下で「おおらかな気風」が5位以内にある。年長者たちが培ってきた地域コミュニティの恩恵を若い世代も感じていると推察できる。この2点については4章でも言及する。

大問【６】として、個人の暮しの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGｓの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

⑴については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」（１現在の生活について⑷現在の生活の充足感）と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和 49 年（1974）から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

⑴⑵については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

６-1 集計結果：設問【６】

⑴質問「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」＊選択肢から３つ選んで回答

回答者が多い順（数字は回答人数）

１ゆったりと休養している時----------748
２家族だんらんの時----------656
３友人や知人と会合、雑談している時------565
４趣味やスポーツに熱中している時--------516
５仕事に打ち込んでいる時----------425
６社会奉仕や社会活動をしている時--------124
７勉強や教養などに身を入れている時-----103

その他 29 無記入 53｜その他内容：◎自然の豊かさを感じる時◎買物◎旅行やお出かけ◎生き物の世話◎特になし◎一人暮らしで足腰痛く、思うように動けない、やっと生きている◎地域の活動に参加◎ドライブ・旅行◎家事◎最近あまりにも嫌な時事、ニュース等が多く充足感がない◎１人でいる時間がある時

6-2 集計結果

⑵質問「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？　豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」　＊選択肢から３つ選んで回答

回答者が多い順

1 心も体も健康でいられること----------783
2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること----------496
3 好きなことをする時間のゆとりがあること---435
4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること----------408
5 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること----------269
6 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること---------- 231
7 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること---------- 206
8 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること----------170
9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること----------110
10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること----------60
11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと----------53
12 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること----------28
13 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること----------26
14 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと----------12
15 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること----------3

その他６ 無記入 51

その他内容：◎健康で地域のボランティアしていること◎自分の役割を知りその目的に努力すること◎現在の世の中考えると、昔に戻ったらと、子供、孫の事が心配です◎社会保障が充実した社会でのくらし

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

豊田地区からの視点で、小山市全域のこれからの都市環境のあり方への意見を問うものとして、この設問を設けた。設問【6】と同様に、田園部、都市部のデータが出揃ってからの詳細検討とし、ここでは集計結果の傾向を掴むにとどめる。

7-1 集計結果：設問【7】

質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

⑴「20 年後、30 年後の望ましい小山市の都市環境のあり方について、ご意見をお尋ねします。A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を［回答欄］にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかと言えば望まない④望まない⑤わからない

支持・共感（「そう望む」「どちらかと言えば望む」の合計%）が多い順に並べ、さらに年代別の結果を加える。

グレーは、全体での結果および年代ごとの結果で、最も「そう望む/どちらかと言えば望む」が多かった項目

	全体	20 代 10 名	30 代 48 名	40 代 96 名	50 代 199 名	60 代 342 名	70 代 96 名
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む小山市	84%	80%	86%	94%	89%	80%	77%
B 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている小山市	83%	80%	84%	94%	90%	80%	76%
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む小山市	78%	90%	90%	87%	88%	90%	69%
C 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている小山市	75%	70%	80%	88%	80%	70%	70%
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる小山市	72%	80%	81%	86%	81%	80%	63%
A 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市	70%	50%	71%	79%	75%	50%	66%
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える小山市	64%	70%	69%	64%	67%	70%	60%

●風景社コメント

7項目は、A/G/Dがどちらかというと開発志向の内容だが、その3項目が下位に並ぶ結果となった。大きな差異が出たわけではないが、総じて、「商業・工業が発展し経済的に発展すること」「平地林や空き地に宅地造成を進めること」より、「農業・環境保全を大切にすること・空き家などあるものの利活用をすること」への支持・共感が高い傾向にあり、また、車社会としての利便性より、車がなくても移動しやすい環境を望む声が上回っている。この傾向は、回答者の7割近くを占める50代60代の意見が反映されているかというわけでもなく、前ページ表のように、40代以下の世代も同様の傾向を示している。

集計では、回答間の相関もデータを取っている。例えば、小山市の将来像として（A)「商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている」に「そう望む」と回答した、開発志向・経済発展志向の回答者が、他の項目にどのような回答をしているか？について、下の表に主な項目のみ抜粋し、前回当社のデータと比較する。

(A)「商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている小山市」に「そう望む」と回答した431名が他項目に「そう望む/どちらかと言えばそう望む」と回答した%

	Aに共感	全回答者
B農業重視・地産地消/自給率アップ	95%	83%
D平地林や空き地に宅地開発が進む	87%	64%
E空き家の利活用で住宅整備	92%	78%

DやEにおいても共感/支持の回答が、全体の平均を上回っている。開発/商工業での経済発展志向であっても、住宅地整備においては、それがイコール「平地林を潰して宅地を造成を」という意見ではなく、むしろ「空き家の利活用」を望む声が全体平均より高く、農業重視の項目とともに90%を超える。田園環境にある豊田地区からの小山市域全体への視点として、特徴的な傾向ではないかと推察される。

その他の相関データについては
＞別添資料（アンケート集計結果報告書P41）参照

【7】（2）では、AからGの項目にない「小山市の都市環境の将来像」を尋ね、305件の回答を得た。その内訳を内容で分類すると次の通り。

A 都市環境のあり方での回答
-1 自然環境への言及(自然環境保全志向)
-2 田園環境と都市環境のバランスに言及
-3 開発・発展への言及
-4 農業に関する言及
-5 移動や交通の利便性への言及
B 生活環境や福祉などに関する回答
-6 子育て世代・若い世代・少子化への言及
-7 高齢化社会への視点での言及
-8 生活や余暇での快適性への言及
-9 経済的な安定、安心・安全な環境への言及
-10 複合的コメントやその他のコメント

回答コメントの書き起こしデータについては
＞別添資料（アンケート集計結果報告書P43）参照

【7】(3) では、自由記述で「小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアもバランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていくべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください」と尋ね、304件の回答を得た。1つの回答の中に多分野の記述がある場合は分割し、その内訳を内容で分類すると次の通りとなる。

A 都市環境のあり方について
-1 都市環境と田園環境の調和や小山市全体での計画に関する意見(46 件)
-2 自然環境の保全を大切に考える意見(9 件)
-3 豊田地区や田園地帯の開発への疑問を呈する意見(10 件)
-4 豊田地区や田園地帯の生活環境、小山駅周辺の開発についての意見（42 件）
B 農業や農地に関すること
-1 田園環境の変化、遊休農地・耕作放棄地の増加についての心配・提案（15 件）
-2 後継者、担い手に関する心配・提案（8 件）
-3 農地の利用に関すること（5 件）
-4 農業振興に関すること・その他（13 件）
C 廃校となった校舎の活用や新校舎（8 件）
D 公共交通や移動の利便性に関すること（18 件）
E 生活環境に関すること（4 件）
F 高齢化社会に関すること（13 件）
G まちづくりの進め方に関すること（17 件）
H その他（94 件）

回答コメントの書き起こしデータについては
＞別添資料（アンケート集計結果報告書 P48）参照

4 調査結果の再整理と考察

ここでは、グループインタビュー、アンケートの調査結果内容に、2 種のデータを加えて、それらをもとに、重要な要素の関係性を紐付けながら、豊田地区での暮らしと意識を総合的に把握することを試みる。

4-1 キーワード抽出と人口増減データ

資料 A：アンケート及び 4 回のグループインタビューの内容から、テキストマイニングという解析ツールを利用して「よく話題に上った」キーワードの抽出を行った。解析は「ユーザーローカル テキストマイニングツール」による。
https://textmining.userlocal.jp/

テキストマイニングは、一般的に使用される「私」「思う」などの意味が薄い言葉ばかりがランキング上位にこないよう、調査対象に特徴的に使用される「コウノトリ」などの単語を重視する統計処理法が用いられる。

解析に用いたテキストデータは、アンケートは、自由記述の設問【4】【5】【7】を対象とし、グループインタビューの解析に用いたテキストデータは、それぞれ 2 時間の会話の書き起こしデータから主催側の発言を除いたもの。

・アンケート自由記述　37,572 字
・自治会リーダーの方々　31,403 字
・地域活動の代表の方々　31,803 字
・子育て世代の方々　25,887 字

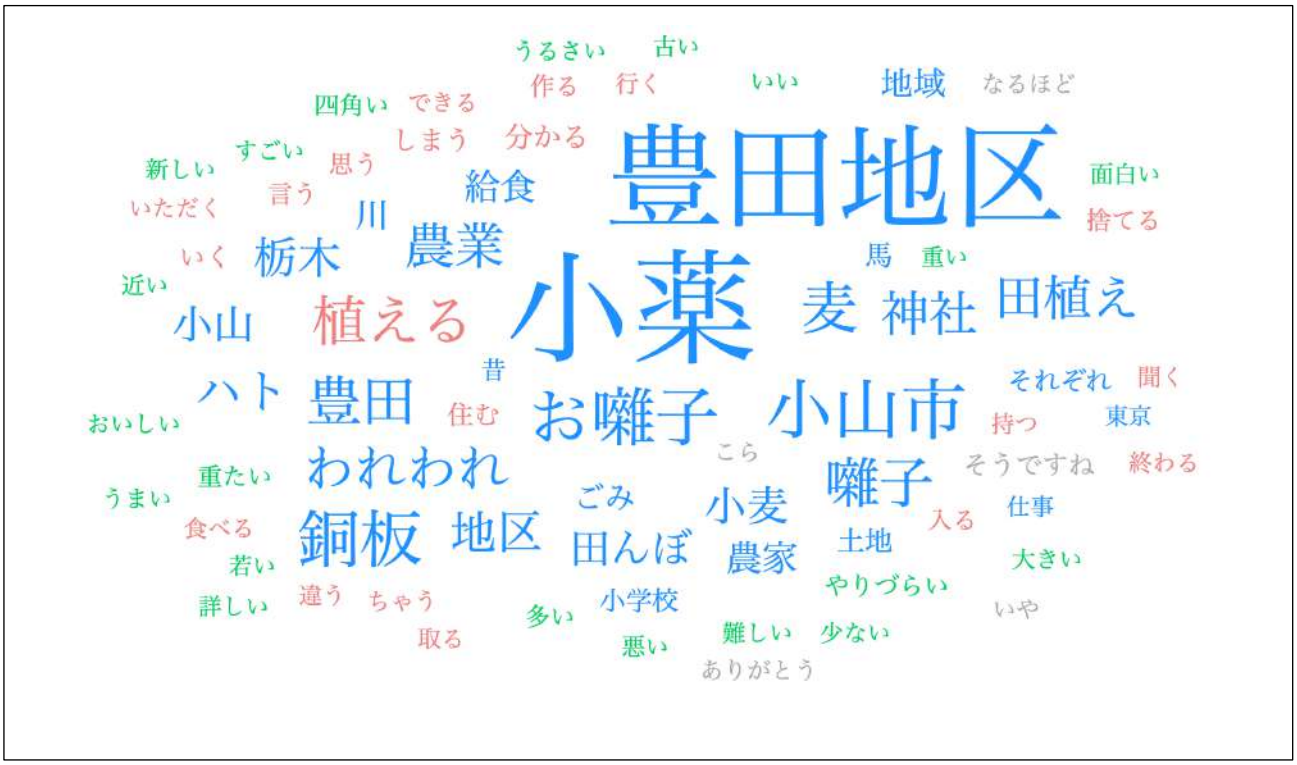
資料 B：地区別の世帯数および人口の増減

国勢調査に基づく小山市統計年報（H19 年度版～R 3 年度版）を編集し、平成 12（2000）年から令和 2（2020）年までの地区別の世帯数と人口の増減が概観できるデータを作成した。

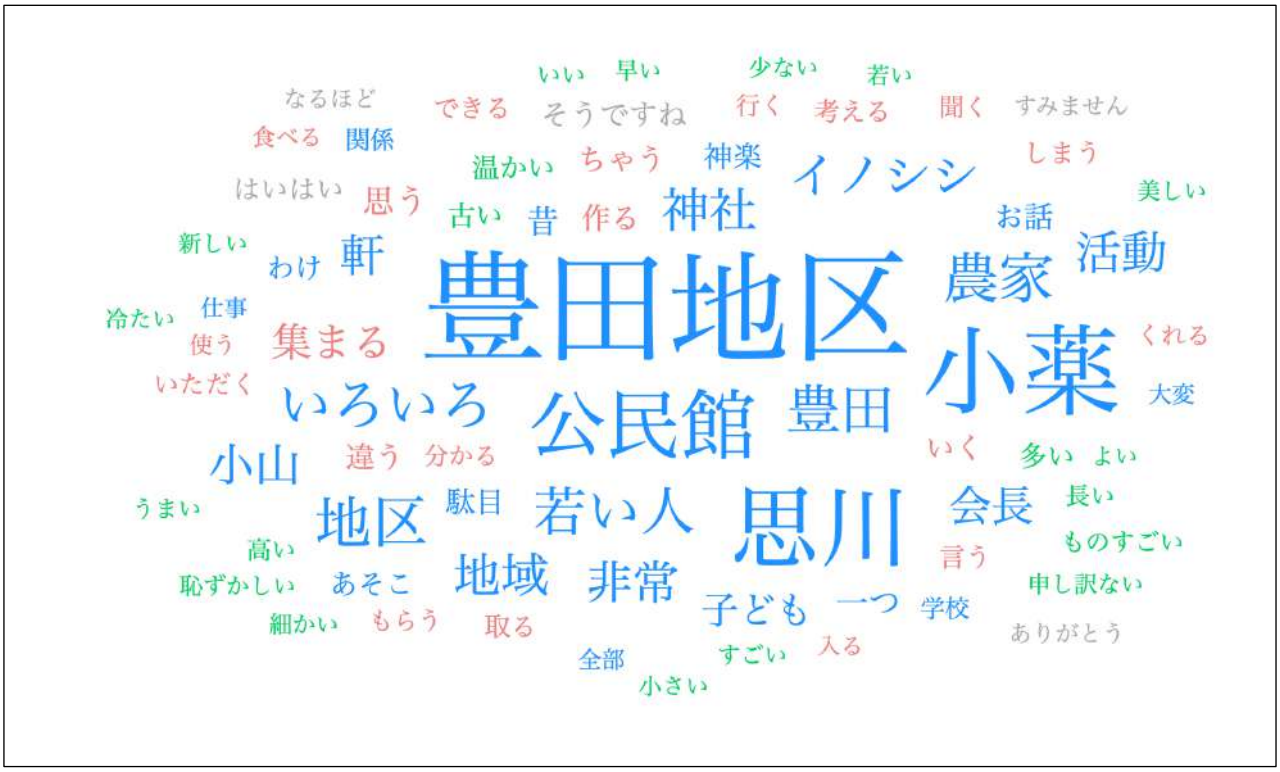
＞資料 A/B ともに、次頁から掲載

資料 A 頻出キーワード

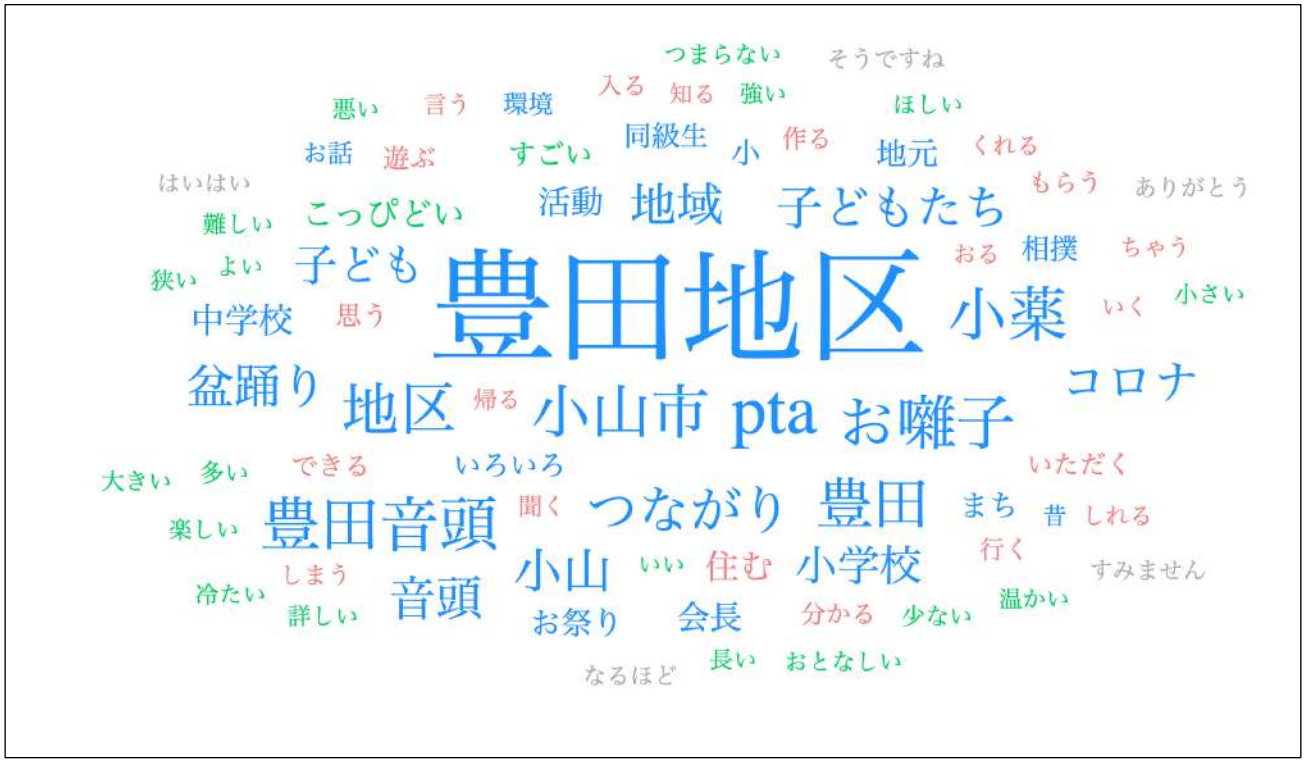
グループインタビュー：自治会リーダーの方々



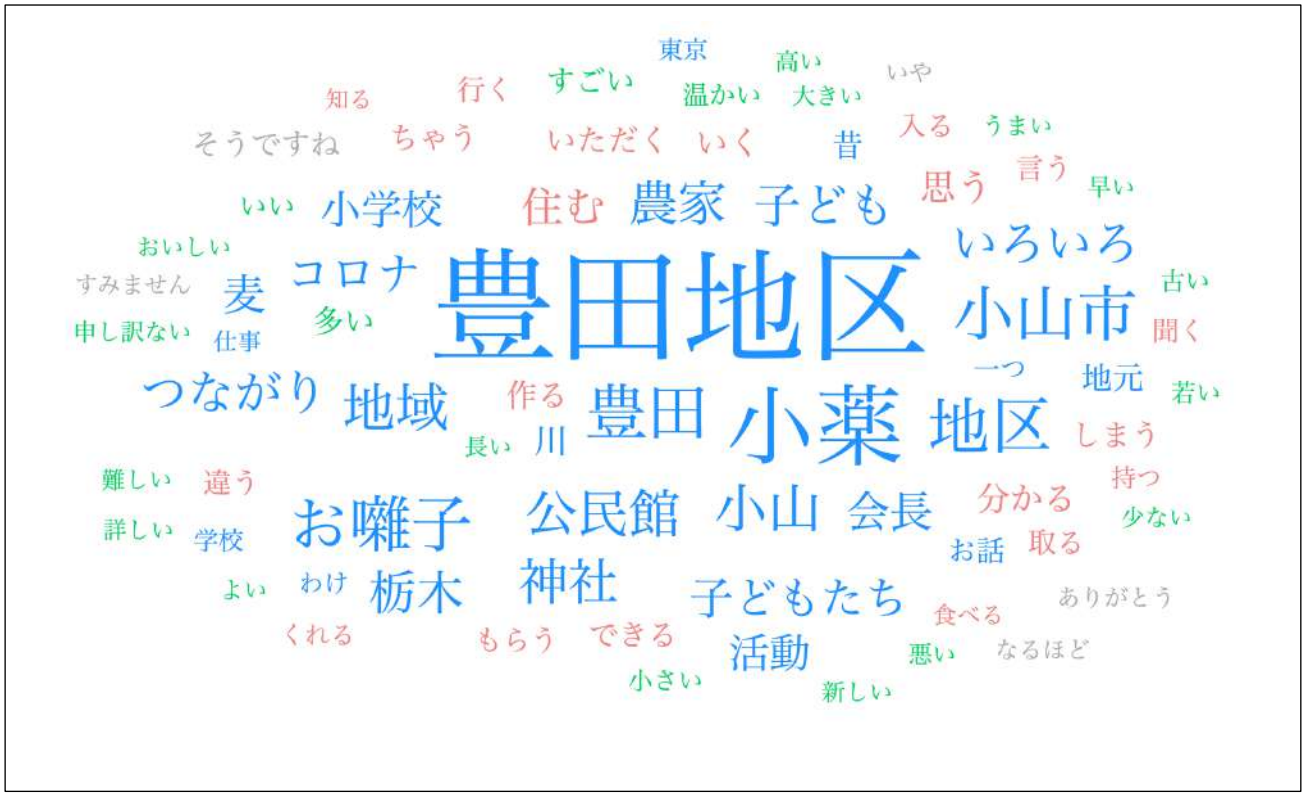
グループインタビュー：地域活動の代表の方々



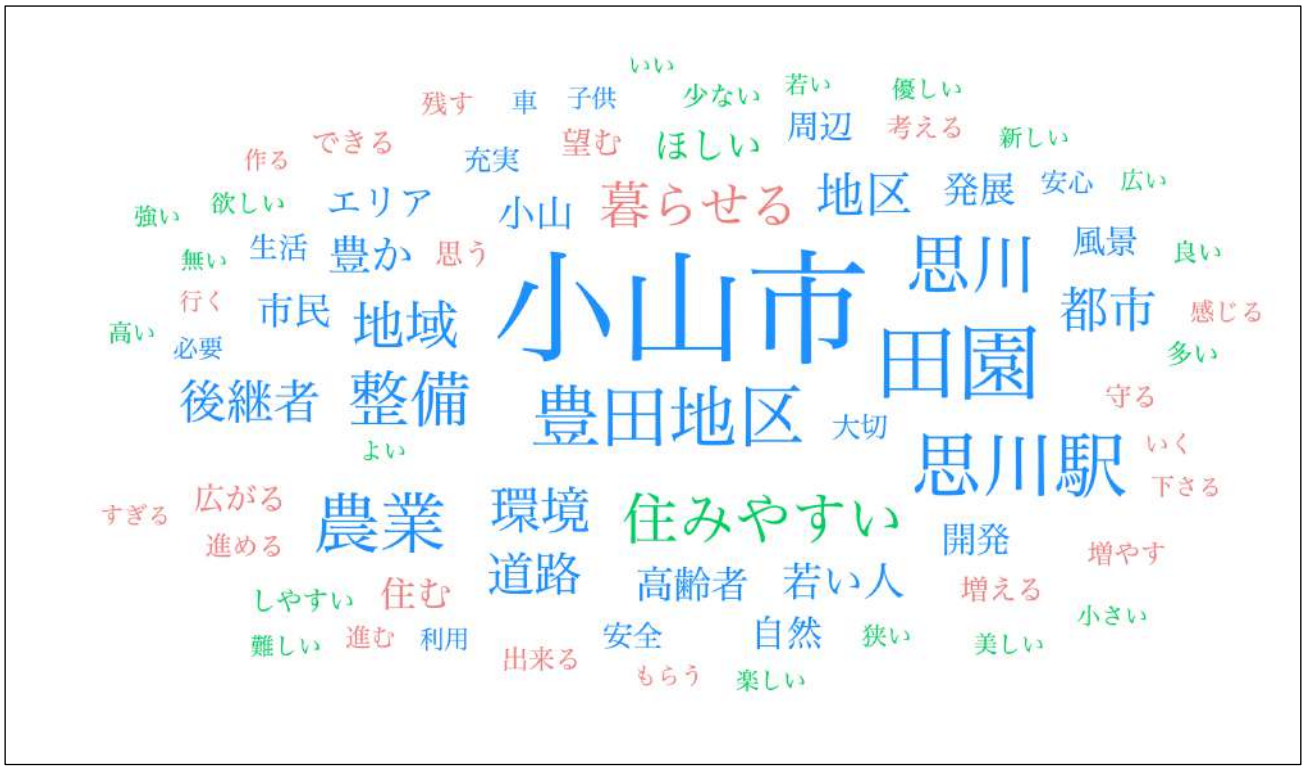
グループインタビュー：子育て世代の方々



グループインタビュー総合 85,990 字



アンケート【4】【5】【7】自由記述



資料 B

地区別 世帯・人口数の変化

国勢調査に基づく小山市統計年報（H19年度版～R３年度版）を簑田編集

世帯数の変化					
	2000 H12	2005 H17年	2010 H22年	2015 H27年	2020 R２年
小山市総数	公開データ無	57,225	62,884	65,792	69,624
小山		20,202	22,791	23,791	24,724
大谷		14,003	15,923	17,061	18,197
間々田		8,983	9,578	10,325	11,239
生井		653	630	624	615
寒川		495	481	465	463
豊田		2,205	2,295	2,293	2,594
中		756	772	780	747
穂積		1,881	1,882	1,787	1,792
桑		6,545	6,984	7,191	7,769
絹		1,502	1,508	1,475	1,484

人口の変化					
	2000 H12年	2005 H17年	2010 H22年	2015 H27年	2020 R２年
小山市総数	155,198	160,150	164,454	166,760	166,666
小山	46,719	49,508	52,331	53,632	52,800
大谷	35,473	38,051	40,441	42,438	43,311
間々田	25,990	26,703	27,095	28,060	28,825
生井	2,534	2,323	2,121	1,907	1,722
寒川	1,909	1,761	1,653	1,495	1,331
豊田	7,833	7,644	7,407	7,086	7,194
中	2,963	2,775	2,637	2,465	2,181
穂積	5,083	4,952	4,679	4,258	4,088
桑	21,013	20,938	20,953	20,678	20,860
絹	5,681	5,495	5,137	4,741	4,354

▽増減率＝増減数÷前回調査時の人口　赤字は増減率マイナス8%以上

人口の増減数(左) と増減率（右）								
	H12 ▷ H17		H17 ▷ H22		H22 ▷ H27		H27 ▷ R2	
小山市総数	4952	3.20%	4304	2.70%	2306	1.40%	△94	△0.10%
小山	2789	6.00%	2823	5.70%	1301	2.50%	△832	△1.60%
大谷	2578	7.30%	2390	6.30%	1997	4.90%	873	2.10%
間々田	713	2.70%	392	1.50%	965	3.60%	765	2.70%
生井	△211	△8.30%	△202	△8.70%	△214	△10.10%	△185	△9.70%
寒川	△148	△7.80%	△108	△6.10%	△158	△9.60%	△164	△11.00%
豊田	△189	△2.40%	△237	△3.10%	△321	△4.30%	108	1.50%
中	△188	△6.30%	△138	△5.00%	△172	△6.50%	△284	△11.50%
穂積	△131	△2.60%	△273	△5.50%	△421	△9.00%	△170	△4.00%
桑	△75	△0.40%	15	0.10%	△275	△1.30%	182	0.90%
絹	△186	△3.30%	△358	△6.50%	△396	△7.70%	△387	△8.20%

4-2 調査結果の再整理

⑴豊田地区の特性

簡易社会調査や資料から見えてくる豊田地区の特性をここでは７点挙げ､3つの考察を加える。

---

①農業の継承を基盤とする自然環境の豊かさ
②住民の誇りでもある豊かな水田と麦畑の風景
③豊かな自然環境の中での生活や子育てを望み、移り住んでくる人の存在
④古くからの米どころとして培われた農村の「結い作業」の継承とも言える、地域活動での共同作業を大切にする気風
⑤担い手不足の心配は抱えつつも、継承されているお囃子、寅薬師、初午祭、太々神楽など
⑥三世代交流と豊かな自然環境に育まれた、おおらかな気質、のびのび育つ子どもたちの存在
⑦分譲団地などの造成で、近年は地区の人口が若干ではあるが、増加に転じている。
（参照：本報告書 P59 地区別世帯・人口数の変化）

---

④⑤「結い作業の継承」について
グループインタビューでは、70 歳以上の方々から、昔の農業について、田植えや稲刈り時に、子どもたちも（学校は農繁休業）総出で集落内や近隣の住民で順番に助け合って農作業を行う様子や、その作業のお疲れ様会的な寄り合いの思い出が「田植えの後、みんなで夕食を囲む「さなぼり（早苗宴)」は楽しかった」などと語られた。土地改良と機械化が進んだ現代では、かつてどの農村でも当たり前のように行われていた「結（ゆい)」とも呼ばれる共同作業は、農作業そのものでは減っているが、おおらかで争い事がないと言う気風とともに、「農地・水・環境保全向上対策」事業での農村環境の保全活動や、「寅薬師」「初午祭や太々神楽の継承」「三世代でのお囃子の継承」「豊田地区盆踊りの復活」などで続いていると言え、各集落単位でさまざまな活動が展開されている。

⑥三世代の交流について
グループインタビューでは、子育て世代の皆さんから「地域のおじいちゃん、おばあちゃんが地域の子どもたちの面倒を良く見てくれている」「ラジオ体操も地域の三世代で行っている」などの話が聞かれ、アンケートでは「子どもたちがのびのびと育つ自然環境を大切に守りたい」という声が各年代ともに上位に上がった。これらのことは、現地調査でも確認してきた、豊田地区の、古くからのコモンスペースのあり方とも無縁ではないと推察される。

集落で大切にされてきた神社と同じ敷地に、公民館がつくられ、鉄棒と滑り台の遊具が設置され、手入れが行き届いた空間になっているところを複数確認できている。

アンケートの【７】自由記述では、「豊田地区には無い大きな公園を望む」声のあるように、小山市発行の「小山市公園ガイドマップ」では市域 10 地区の中で豊田地区のみ公園の記載がない。しかし、このような世代を超えて集える機能を持った空間が集落ごとにあるのも、豊田地区の特質であり地域コミュニティの維持に大切な要素となっていると考える。

⑦新しい住民の方々の地域への参画
新しく豊田地区の移り住んでこられた方々へは、地域団体や農業者の方などが様々な配慮や働きかけをされていることが、グループインタビューで伺えた。新しい分譲団地などの近くに水田を持つ農業従事者が、朝早くから作業をする際のトラクターの音や、道路を走る際に落ちる泥などについて新住民へ気を使っていること。また、自治会の運営や集落の神社の祭りなどの維持のために、新しい住民の方々へ説明や働きかけに苦心されていることなど。

また、その一方で、子育て世代のグループインタビューの際には、結婚を機に豊田地区に移り住んだ方々から、PTA 活動などで、イベントなどの「きっかけ」があると、すぐにネットワークができて積極的に地域の活動に参加できるようになり、そのネットワークのおかげで活動や生活も充実されていることが伺えた。「きっかけづくり」の重要性を話されていたのが印象的であった。

⑵ 大切に守りたいこと、解消したいことの関係性を読み解く

アンケート【4】【5】の結果やグループインタビューで語られたことからは、「大切に守り未来につなげたいこと」と「解消したい課題」の表裏一体の側面も見えてくる。地区の固有の状況や特性を踏まえながら、その関係性を読み解き、大切なことを守るための道筋と、その「阻害要因」を解消するための道筋を探ることが、
未来のビジョンを考える手掛かりにもなる。
その視点から、以下に、アンケートの自由記述の例を加え、4つのテーマについて整理する。

①農業
大切に守りたいこと 1位/2位
「水田が広がる環境、風景」
「子どもたちがのびのび育つ環境」
大切に守りたいこと 14位
「産業や生業としての農業」
解消したい困りごと 2位
「農業の担い手・後継者不足」
●農業が健全に継承されることでもたらされる環境や風景を守るためには、農業従事者や関係者だけではなく非農家や都市部住民などがどのような関わりを作っていくかが大切になると思われる。「これらの大切に守りたいもの上位を、守り継承していくためには？」は、今後、都市部も含めて風土性調査を進める際に考えていくべき大きなテーマとなる。

②公共交通
大切に守りたいこと 3位
「JR 思川駅や県道が通る利便性」
解消したい困りごと 3位/4位
「公共交通/買い物の不便さ」
●30代から50代では「自然が豊かに残っていて、それでいて JR 駅もあり交通の便が良い」という声がある一方で、高齢者を中心に、思うように通院や買い物に行けない環境であるという声が強い。70代以上の方々は、グループインタビューで語られていたように、豊田地区の小売店が多くあった時代を過ごして来た方々でもあり、当時の小売店の並びや数なども鮮明に記憶されている方々でもある。

③寺社や祭り、伝統芸能
大切に守りたいこと 4位/8位
「地域に残る歴史ある神社やお寺」
「各地域に残る祭りや風習、伝統芸能」
解消したい困りごと 11位
「祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足」
●さまざまな地域活動の担い手不足も深刻だが、豊田地区には、お囃子活動が継続される地域もあり、グループインタビューでは、太々神楽の若年層の継承、わがまち元気発掘委員会による「新編・豊田音頭」の誕生・盆踊り大会の復活など「継承」と「創造」のパワーも感じられた。

④地域の集まりや共同作業
大切に守りたいこと 8位/9位
「各地域に残る祭りや風習、伝統芸能」
「消防団や自治会活動等、地域の助け合いの活動」
解消したい困りごと 6位/7位
「昔からの風習」「地域の集まりや寄り合い」
●集会、寄り合い、共同作業への考え方は、世代に

よって明確な差が出ている。昨年度調査を行った生井地区でも同じ傾向があった。

【4】解消したい困りごとを尋ねた結果では、20代から50代では、上位5つの中に「地域の集まりや寄り合い」が入り、60代以上では、上位5つの中に「地域活動の担い手の不足」が入る。20代から50代は、仕事や子育てなどで忙しく、地域の集会や寄り合いには、どうしても負担感を感じる時期だと言える。

そのような状況について、グループインタビューで年長者の方々が語っていた若い世代への視点がおおらかで地域コミュニティを大切にする豊田地区の特性が良くあらわれているのではないかと思われた。以下に、その記述を再掲して、簡易社会調査報告の結びとする。

◎これから少子高齢化で若い人はだんだん減っていく。そういう中で、若い人の出番というか、若い人がこういう地域活動に出ていくという風潮が、今までの私たちの時代よりは減りますます参加しづらい環境になっていくのではないか。
◎若い人は手作りする時間がないという「吊るし雛」の話もあったが、今までは、高度経済成長期で、みんな結構お金も時間もあったが、これからは違う時代になるので、少しやり方を変える必要がある。お金もないし、時間もない。そういう中で、若い人材をどういうふうに生かしていくか。地域にどのように生かしていくか。そこを大切に考えていかないと、地域は衰退の一途を辿るのではないか。
◎自分たちが若い時にやっていた仕事と、今の若い人たちの仕事は、かなり違うと思う。肉体的にも精神的にも、頭も使うし、仕事の内容が違う。そういうところも理解して、若い人にどういうふうに関わってもらって協力してもらうかを考えて、継承のことも考えていくのが良いと思う。

参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、豊田地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

薗田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

思川の自然調査委員会『都市の清流…思川を歩く』(小山市教育委員会、1994 年

和辻哲郎『風土ー人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本ー自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然ー防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて: 人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (1)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁
https://doi.org/10.5738/jale.21.15

2 地質・地形

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年

小山こどもの森｜地形の成り立ち｜低地性扇状地と三角州
http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/chikei.html

金森定敏「思川の地形と生物」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984 年、25-36 頁

「栃木の自然」編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997 年

須貝 俊彦・松島(大上) 紘子・水野 清秀「過去 40 万年間の関東平野の地形発達史―地殻変動と氷河性海水準変動の関わりを中心に―」『地学雑誌』122 (6)、公益社団法人東京地学協会、2013 年、921-948 頁
https://doi.org/10.5026/jgeography.122.921

貝塚爽平ほか編『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、日本地質学会、2021 年、635-648 頁
https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019

国土地理院｜地理院地図
https://maps.gsi.go.jp

国土地理院｜明治期の低湿地データ｜原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図（明治 13-19 年）
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院｜空中写真閲覧サービス
https://geolib.gsi.go.jp

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター｜地質図 Navi
https://gbank.gsj.jp/geonavi/

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構｜日本土壌インベントリー
https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983 年

気象庁｜過去の気象データ検索
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php

4 生物と生態系

栃木県｜レッドデータとちぎ WEB
http://tochigi-rdb.jp/
木嶋利男「ネギ属植物や雑草との間・混作による作物病害の防除」『雑草研究』 56 (1)、日本雑草学会、2011 年、14-18 頁
https://doi.org/10.3719/weed.56.14

東淳樹「農村が育む鳥類」『農村計画学会誌』 35 (4)、農村計画学会、2017 年、477-481 頁
https://doi.org/10.2750/arp.35.477

平野敏明「サシバは大きな獲物を巣へ運ぶか」『山階鳥類学雑誌』36 (1)、公益財団法人 山階鳥類研究所、2004 年、83-86 頁
https://doi.org/10.3312/jyio.36.83

関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本計画」2016
https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000743631.pdf

環境省｜生物多様性センター｜自然環境調査 Web-GIS
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php

南谷幸雄「栃木県におけるホウネンエビの分布記録」『栃木県立博物館研究紀要 自然』36、2019 年、21-22 頁

帰山雅秀「水辺生態系の物質輸送に果たす遡河回遊魚の役割」『日本生態学会誌』55 (1)、2005 年、51-59 頁

5 歴史一般

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979 年、26-47 頁

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

小山市指定文化財（有形文化財–歴史資料）「下生井の道標」案内板

今井敏行「集落内道路の整備診断手法に関する一考察」『農村計画学会誌』1(2)、農村計画学会、1982 年、26-35 頁
https://doi.org/10.2750/arp.1.26

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 – 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

7 古墳

「シリーズ 郷土小山の古墳を巡る (2) 思川西岸の低地に築かれた古墳 (2)」小山市立博物館、1994 年

町史編さん委員会編『図説 国分寺町の歴史』国分寺町、2000 年

8 漁業

栃木県立郷土資料館編『下野の漁撈習俗』栃木県教育委員会、1975 年

9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004 年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979 年、26-47 頁

10 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978 年

藤岡町古文書研究会「洪水常襲地域における水神信仰と水防意識の実態調査・研究報告書」2007 年

成島行雄『とちぎの野仏』花神社、1977 年

11 民俗

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978 年

12 水害防備

大熊孝「霞堤の機能と語源に関する考察」『日本土木史研究発表会論文集』7、土木学会、1987 年、259-266 頁

池田裕一、飯村耕介、柴沼莉沙「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨での栃木県小山市における浸水被害の発生状況について」『河川技術論文集』22、土木学会、2016 年、339-344 頁

13 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年

田園環境都市ビジョン 基礎資料
豊田地区

2022 年 10 月

小山市